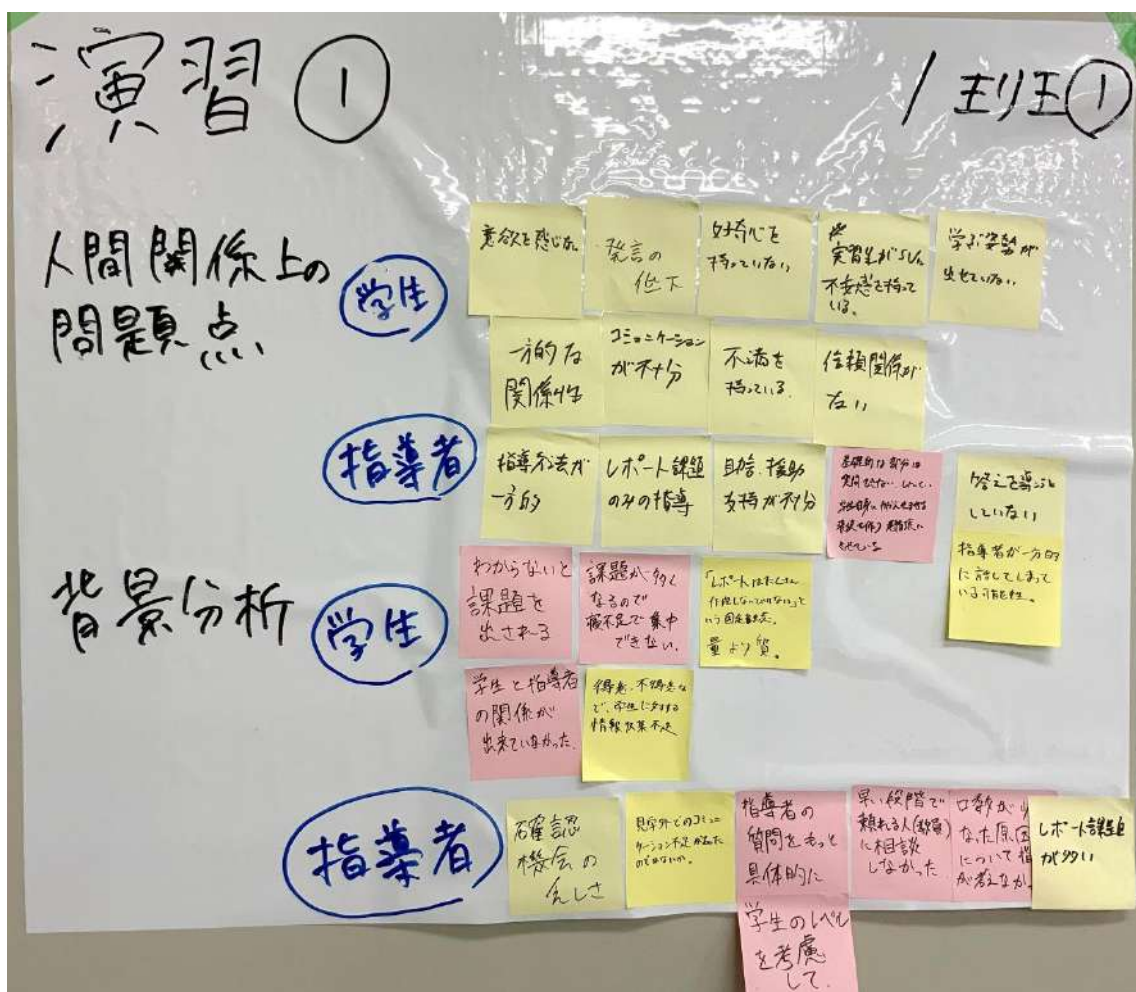


講習会の概要

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	1 班

1 班 1



演習①

1班2 ②

学校養成施設 教員の情報共有

実習前

事前に学生と面談を行うべく

事前に各校の学生特性に関する情報を得る

実習中

教員との連絡(各自)

学校へ連絡をとる時は、連絡の目的や内容、希望する対応などを伝える。

与体と実習生の関係に配慮しながら、教員に適切な連絡を行う。連絡の際は、目的や内容を明確にする。

日報や週報、月報、学校報、連絡簿などを活用する。

実習後

実習後は、学校からのフィードバックを受け、次の実習につなげる。

良い点、悪い点を振り返り、今後の実習に活かす。

指導上の工夫

質問に対してはその場で答えてあげる

質問の内容がわからない場合は、その場でわからないと伝える。

学生の不安を軽減し、質問しやすい環境を作る

質問しやすい雰囲気を作る

学生の不安を軽減し、質問しやすい環境を作る

この部分の話を聞いてから、自分の経験や知識を共有する。

指導者の積極的な声かけを促す。

報告書、指導書、日報、週報、月報、学校報、連絡簿などを活用する。

指導者の積極的な声かけを促す。

レポート課題を学生と相談して決める課題を出す。

指導者側も先生に見学に行かせる。

指導者の工夫

学生の不安を軽減し、質問しやすい環境を作る

指導者の積極的な声かけを促す。

指導者の工夫

学生の不安を軽減し、質問しやすい環境を作る

指導者の積極的な声かけを促す。

環境作り

関係性

工夫
対策

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	2 班

2 班 1

演習 1 (No.1) 2 班

人間関係上の問題点

- 言葉のやりとりが少ない
コミュニケーション不足
- 指導者と実習生の
の方向性
- お互い
わからない
- 実習指導者の
話し方を変え
てみる
- 普段からの
コミュニケーション
少ない
- 白紙質問少ない
レポート課題
→ 課題への
やりとりが少ない

コミュニケーション不足

背景分析

- 学生(実習生)の
質問内容も具体的
- 焦点を
絞った質問
の仕方
- SVの
役割意識
- 1つ質問は
いいけど
質問がわからない
- 学生が
評価を
気にしている
- 学生の
事前
勉強不足

- 学生の性格・学力
- 質問内容の明確化
- 質問しやすい環境

演習1 ② (No.2) 2班

学校養成施設の教員との情報共有

問題点を共有する

連絡を密にする

教員から定期的に連絡

教員に進捗を事前に報告しておく

実習中に登校日があると対面(話す)の安心する

最初(開始時)に学生の性格など教員のSVへ情報提供

(学生) 教員 SV

・実習前の情報

・実習中の情報(フォームワーク) → TEL + 紙面(今のところ)!

密な連携

指導上の工夫

初)エンゲージメントで話して安心感を知らせる

始)初)エンゲージメントで目的をしっかりと伝える

実習生同士の関わり

2対1の配慮

周囲の環境作り

話しやすいのびのびした環境作り。コミュニケーションをよくとる必要性がある

申し申しの安心感できるように

相談を交えて行う

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	3 班

3 班 1

3 班 1 ~ 演習 1 ~

No. 1

● 人間関係上の問題点

実習地の雰囲気

- 質問しづらい 雰囲気
- 尋ね方 (質問し、お礼し、質問に感謝する)
- 実習内容以外の話をするなど、気持ちに余裕がなさそう
- 信頼関係の出来こいなし、指導者に対する
- 会話している頻度が少ない
- 一言の指導 (実習中など)
- 指導者、学生への期待が低く、学生は自分のペースで進めたい
- 1. 第一印象で指導者が高圧ではないか
- 1. 指導者が話しやすい、人間関係が良好か
- 施設の中で、指導者以外の人間関係が十分か

相互の先入観

- 1. 実習前の施設情報が少ない
- 1. 病棟の情報、学生が実習前に施設に慣れていない

● 背景分析

指導者側の視点

- 2. 実習生の質問に対して否定しすぎている
- 2. 指導者が実習生に学ばせる機会が少ない
- 実習生の能力、対応、課題達成、実習内容、実習生のモチベーション
- 指導者の実習の役割、役割、役割
- 学生が質問する機会が少ない
- 2. 実習生の意見、指導者の内容を具体的に伝えているのか
- 質問-思惑、お礼-提供まで
- こちらの意見、指導者の内容を具体的に伝えているのか
- 質問-思惑、お礼-提供まで

学生側の視点

- 実習生は興味がない
- あんなにこんな多量な内容を聞いていいかわからない
- 2. 課題が深入りしない



名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	4 班

4 班 1

演習 ① 4 班 1 No. 1

〔人間関係上の問題点〕

- 学生と指導者が気軽に本音で話しできない関係性であった
- バイザーが日々の業務で忙しい為、指導者側に余裕がなく、質問できるゆとりとした時間なかった。

〔背景分析〕

- 上下関係ができ上がっている。
- 指導者が「ざく然」とした質問をしている。
- コミュニケーション不足

お互い状況(予定や都合)を話し合おうと意識があった

演習① 4班 No.2

[学校養成施設の相互の情報共有]

- ・ 事前に学生のバックグラウンドがほい
- ・ 早期に学校の情報共有

[指導上の工夫]

始めに
LINE
使う

質問を
具体的に

ほめる

認める

- ・ たくさんの指導者と関わろう
- ・ フランクな会話ができる環境をつくる

Discussion
Discussion
Discussion

上下関係

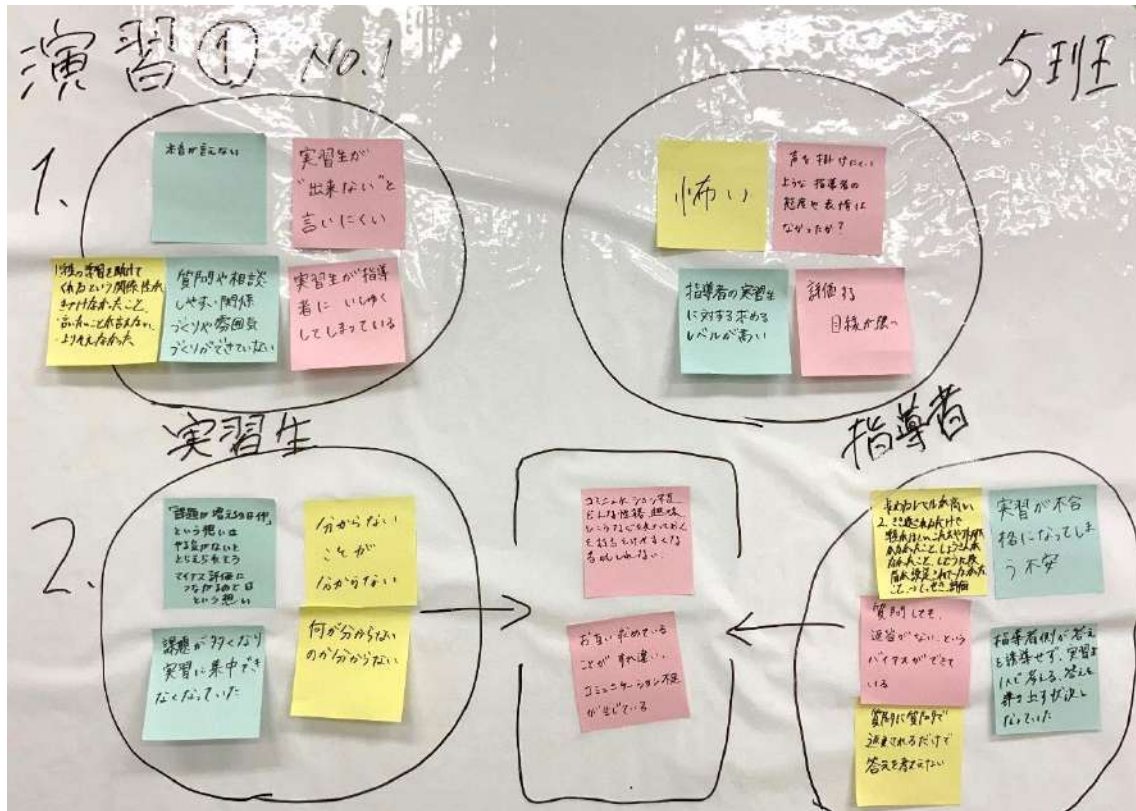
気楽に発言
話せる!!

事前
学生の
バックグラウンド

4.17に
話し合える時間
を作った
(LINEでやる)

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	5 班

5 班 1



演習① No.2 5班

3.

- 文部科学省の学校への指導を把握しておく。(校長 何の通知で来るか、)
- 1Wごとに状況の連絡
- 質問が出た時の対応 (わかる場合は)
- 中絶の理由を因るタイミングを述べている
- 実習生のサポートや苦手のことを情報共有する
- 実習生の1対1、今後の課題、課題点を具体的に提示する
- 連絡先(住所、名前)を把握する。連絡先(住所、名前)を把握する。連絡先(住所、名前)を把握する。

→ 実習を知る努力

4.

- 自分の事や言える、言えない関係性を考える
- 質問に対して課題と疑問を返す。答えられない場合は、答えられない理由を伝える
- 分からないことを探す質問をする
- 学生の興味を持って、自分の持っている知識を共有する。質問を返す。答えられない場合は、答えられない理由を伝える
- 実習の相談を聞く。困っていることを一緒に考えたい。授業の進捗や日程について相談する。
- 課題の量内容を把握する
- 他の指導者とのコミュニケーションを図る
- 自分の学生のことも考える
- 課題の解決に時間を決める
- 実習初日に必ず挨拶をする
- 担当以外でも声かけをする
- 他の指導者や実習生の話を聞き、自分の見解を伝える。他の指導者や実習生の話を聞き、自分の見解を伝える。
- 質問できたことに対して正のフィードバックを与える

→ 学生への気遣いとコミュニケーション

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	6 班

6 班 1

演習 1
6 班 ①

<人間関係上の内題点>

- ① 一方的なコミュニケーションが多い
- ② 指導者の意見、理解、把握ができていない
- ③ 日頃のコミュニケーションが少なくて、臨場感が足りない
- ④ 話しにくい態度になっていく
- ⑤ 上下関係により萎縮している
- ⑥ 課題の負荷が大きい

<背景分析>

<実習生因子>

- 性格
- 質問内容への不安
- 質問返しに対する恐怖
- レポートが増えている
- 体調管理
- 意欲低下
- 知識不足

<指導者因子>

- 指導能力の問題
- コミュニケーションが円滑な環境作りができていない
- 体調管理と確認

6班2②

〈学校養成施設の教員との情報共有〉

電話
面談

① 教員との関係は、内容を定めておく。内容は共有し、指導内容を共有する。共有する。

② その関係、身に付くことは、連絡してあげたい。

③ 実習生の進捗状況を把握し、指導方法を共有する。実習生の様子や、指導方法を共有する。

④ 実習生の進捗状況を把握し、指導方法を共有する。実習生の様子や、指導方法を共有する。

⑤ 教員との関係は、内容を定めておく。内容は共有し、指導内容を共有する。共有する。

⑥ 実習生の進捗状況を把握し、指導方法を共有する。実習生の様子や、指導方法を共有する。

⑦ 実習生の進捗状況を把握し、指導方法を共有する。実習生の様子や、指導方法を共有する。

⑧ 実習生の進捗状況を把握し、指導方法を共有する。実習生の様子や、指導方法を共有する。

課題提出後、早く電話や直接面談にて

・ 実習生の日々(学校生活)の様子を情報収集する(学業、仲間)

・ 実習の進め方、接し方、指導方法を共有

〈指導上の工夫〉

① 管内の新しい指導法、指導方法を共有し、自主学習を促す。深めたい。

② 対応の仕方を共有し、深めたい。

③ 指導者の説明の聞き方、深めたい。

④ 指導者の説明の聞き方、深めたい。

⑤ 指導者の説明の聞き方、深めたい。

⑥ 指導者の説明の聞き方、深めたい。

⑦ 指導者の説明の聞き方、深めたい。

⑧ 指導者の説明の聞き方、深めたい。

・ 目録時間の管理

・ 課題量の調整

・ ストレスの原因を知り

・ 否定をせず、答えを導いていく

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	7 班

7 班 1

演習 1

人間関係上の問題点

課題の量が確認できず分けた

レポートの内容について課題の量や目的共有ができていなかった

→ (指導者側)

↑

フォロー不足
指導者の模範行動が少なかった

② 上下の関係
教えることがわかっていない
上下関係
1. 会議資料が少なかった
2. 質問がなかった

(両者)

① 背景分析

やる気がない
見ている

質問はない？
おもしろいけど「森」の面白さ
知らない、どうやって
伝えよう

指導者の学習の質が低い
指導者の質

質が高い
雰囲気

(指導者側)

(学生側)

指導者の信頼感
低い

自主学習
意欲が大きい

質内通し
少ない

質問に回答
が返ってこない

学習不足
知識不足

質問が
少ない

課題の量
多い

「質問が少なかった」
指導者の学習の質が低い
指導者の質

開いたときに
教える内容を
課題の量が多すぎた

質問が
少ない

知識量が
少ない。疑問が生かれない。
興味がない。

③ 両者

信頼がなかった

フォロー不足
問への回答が少なかった

(学生側)

演習1

○学校養成施設の教員との情報提供

7班 No2

指導者側

早い段階で相談好

実習前・実習中
学生に問いかけておく

指導者へ不安を感じた
記録を

不安を感じた
大丈夫?と思ふ時
睡眠日記

実習中に不安を感じた
不安を感じた

不安を感じた
来るだけOKなの?

教員

学内での学生の様子の取柄

実習開始前
実習中
実習後

どのような実習生に
対応する?

○指導上の工夫

実習時間中
教員と相談者
調整好

課題量
教員と相談者
調整好

学生の課題
範囲を狭く
具体的に示す

課題の
時間
調整好

課題面

→ 本人のやりたい事
苦手を克服のために
苦手を教える

実習時間中
教員と相談者
調整好

実習提示
指導者
調整好

実習時間中
教員と相談者
調整好

実習時間中
教員と相談者
調整好

コミュニケーション

→ 細かい質問を
していく

具体的・質問内容
教員と相談者
調整好

実習中

→ 患者さんがいる所
わがてらでやるように

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 1 【その他臨床実習に必要な事項】人間関係論 (90 分)
グループ	8 班

8 班 1



3. 学校養成施設の教員との情報共有

事前の情報収集

- 3 校内の実習生の様子(態度、性格)を電話などで聞く。
- 3 学生紹介資料の読み取り、教員との連絡。
- 3 実習前の個人学校(教員)の個別の目標設定。

実習中の連絡

- 3 合否についてではなく、実習について話し合う。
- 3 質問が少なかったら、感じ、対策を教え実施したか、改善点があるか。
- 3 2週間経過後、改善変化の有無や、場合、数量に相違がある。

4. 指導上の工夫

コミュニケーションへの対策

- 3 本音と真意の差を埋め合わせる。
- 3 質問が少なかったら、どうしたら全体に伝わるか。
- 3 実習の進捗状況を把握し、必要に応じて支援を行う。
- 3 実習の進捗状況を把握し、必要に応じて支援を行う。
- 3 実習の進捗状況を把握し、必要に応じて支援を行う。
- 3 結果だけでなく、見方、過程にも関心を持ち、指導を行う。

課題

- 3 学習課題の整理 → 順位づけ。
- 4 実習中の質問に対する質問の整理は、定期的に行う。(実習中の質問整理は定期的に行う。最終的には定期的に答えを提示する。)
- 4 実習中の質問に対する質問の整理は、定期的に行う。――「10分間の質問整理」を行う。
- 4 実習中の質問に対する質問の整理は、定期的に行う。(本や文献)は必ず見直し確認して終わらせる。
- 4 学生の実習の「目標」をもう一度確認する。
- 4 PTの教員に「課題点」を提示し、他の教員にも共有する。

→ 体調管理を優先させる。

演習①② 8班

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について (90 分)
グループ	1 班

1 班 1

演習② 指導者本人 事例 | 1 班 ①

ハラスメント

大声で「そんなの...」「何で...」

患者さんへのアフレコ無し
小言増えた。

不当な言動
大声で否定
患者の前で
患者さんへの
小言が
増えた。

想定される背景や実体験等

心理学的な
問題
不安感
過緊張
自信喪失

患者の前で
患者さんへの
小言が
増えた。

患者さんへの
アフレコ無し
小言増えた。

上司報告
患者対応

初期対応

患者への
肩の痛みへの
対応

上司への
事柄の報告

途中まで
問題意識
いっていた
のを止める。

リスク管理
の指導不足

上司報告
患者対応

演習② 指導者本人 事例！ / 班 ②

学生保護

取柄事故後の状況把握の対応方法の振り返り

- 患者さんが学生に不信感を抱くことによる対応方法を考える。
- 学生が落ち込む(安心感)を減らす。
- 本日は毎日10分程度SNSにコメントする。第3者の関与が重要になる。
- 指導者本人の謝罪、見解を説明し、謝罪を促す。謝罪を促すことで、第3者の関与が重要になる。
- 学生に対して謝罪の対応方法を指導する。指導者が他の現場に気づかせる。

声かけ

問題解決

学生への謝罪 患者への謝罪 指導者が意図的に一緒に謝罪。

学生への心づき

第3者の介入 適切な介入を促す。

相談に相談者 学生側から指導者側へ

歩行介助の学生と一緒に、良い状態に指導者が入る

“バイザー” 交代

SNSにおける指導

SNSにおけるバイザー指導

謝罪する 学生へのケア 治療技術の指導 指導者の変更

再発防止

指導者のリスク管理

介入前後の指導

歩行介助以外のリスクの把握 治療方法を適切に行う。

歩行介助の確保 適切な介入を促す。

リスク管理と 介入前後の指導 適切な介入を促す。

指導者の 感情のコントロール

介入前後のリスク管理と適切な介入を促す。

学生へのリスク管理 指導者のリスク管理 オ三者が介入して分析 ハラスメント研修

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について (90 分)
グループ	2 班

2 班 1

演習② 2班1

事例① 臨床実習後半での対応、実習指導者の立場 ①

ハラスメント

患者がいた所で
指導した所

ハラスメント
と云うのは
2人、3人

何を伝えているか
何を伝えているか
増えているか

予想される背景や実体験

苦痛している
70-80%の患者

患者が実習生
いかにと云うか
伏線が
100%の患者

上下関係が
医師との関係
背景が
ある。

学生 教師は
口で言う
からいかに
指導しているか

患者の言葉
は口で言えて
ほいと言えない
1人1人違う

指導者? 信頼できる?
同じ日が
中々3/2/2

担当患者は
5人ほど
経験 事例は
ある。

学生5人の
責任で対応

初期対応

卒業生
と話す
年齢、性別と
してコミュニケーション
を取った。

学生の話を聞く
→ 上の先生が
話を聞く。もし
指導者側。

患者に話を聞く
→ 先生が聞く
→ 先生が聞く

同様のスタッフ
はと云うか
スタッフは
経験が豊富

学生保護

軽微な対応
はと云うか
心のケアを
取る。

心のケア
はと云うか
経験が豊富
→ 先生が聞く
→ 先生が聞く

介入方法を
一緒に考える
教えた

スタッフが加
入が
患者が
経験が豊富

相談と3/2/2
を作った。
学校の先生

指導者と
変えた。

問題解決 演習② 2班 ②

第3者として
知能=379.7
E級医師

リスク管理
E級医師
A3

スタートの時は
16番番15番
10L 29.720L
学生はバリエーション
+29.7が入り
進めたいと外
す

教員も
文で記載
相対的

再発防止

実習の取片
E級医師
最初、医師の
認知

話し合う
場を設け
る例は他29.7
共有

コミュニケーション
と29.7

事例について
他の29.7間
に取片

早見で解決し
たい医師の29.7
E

実習を指導
する研修を
行い、これ
以降を要する

患者の前で
よりの意識を
変え?

学生の心境の
変化を察知
し対応する

スタート前
介助の練習
を行う

前もって初診
にこの確認
を行う

バリエーション
29.7を担当
する医師

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~ 28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について (90 分)
グループ	3 班

3 班 1

3 班 演習 2 ①

事例① 臨床実習後半の対応 (部門長)

ハラスメント

患者の前で怒る
高圧的な態度

背景・実体験

指導者が
学生に能力評価を怖に行っていない
指導者が学生にリスクを伝えられていない
対応に力をもて考えられていない

初期対応

各の指導者・学生に話をする
学生のフォロー
指導者に学生の管理状況を確認
患者のフォロー

ハラスメント
指導者の高圧的
「そんなやり方があるんじゃない」
「そんなやり方」
「そんなやり方」
怒る発言

大抵の対応は
セリフが
リスク

学生への
セリフ
(言い方)

① 対応の対応
中におこなった
実習生と指導者
への対応

各々の指導者
と学生との関係
に対し、話の
やり方

初期対応
実習に出席し
いない
理由

指導者の対応
と学生の対応
の差
事柄が
発生した時
患者と学生
への対応

指導者の対応
と学生の対応
の差
管理状況の確認

② 学生の対応
と指導者の対応
の差
対応に力をも
て考えられて
いない

③ 指導者
と学生
の差
指導者の対応
と学生の対応
の差
指導者の対応
と学生の対応
の差

④ 指導者
と学生
の差
指導者の対応
と学生の対応
の差

学生保護

- 学生に指導者側の内題や対応を伝える
- 学生と指導者間の関係調整を行う

再発防止

- ハラスメントについて科内で今回の事例を通し話し合う。
(転倒について 対応について)
- 学生係
複数の指導者が関わるようにする。

問題解決

- 転倒について リスク管理を再確認
- ハラスメントについて 学校側・学生・指導者・部門長4者で話し合いをもち
- 科内で今回の事例について話し合う

学生保護 (Yellow sticky notes):

- 転倒は、学生への対応が重要
- 指導者側の対応が重要
- 学生への説明が重要
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明

再発防止 (Yellow sticky notes):

- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明

問題解決 (Yellow sticky notes):

- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明

Other sticky notes:

- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明
- 転倒の原因が不明

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について (90 分)
グループ	4 班

4 班 1

演習② 4 班 事例① 臨床実習後半でのハラスメント No.1

対応者の立場 : 指導者本人

ハラスメント : 患者の前での不適切 (感情的?) な発言

予想される背景や
東洋版等 : 転倒させた事への動揺やあせり、責任逃れ
指導者の
職場環境 (上司に思われる)、学生 1 人で
勤務記録の作成

初期対応 : 学生の思いを傾聴、関係部署に連絡

学校へ報告
(指導者同
対応)

職場
対応

報告連絡
初受

演習② 4班 事例① 臨床実習後半での対応 No.2

学生保護：患者との関係の修復。

問題解決：

- 相談し相談窓口 懇話後のフォロー
- 学生と同一の傷付けない人間関係より言葉以上、相手と選べが必要
- 担当患者の変更

学生1人で
歩行訓練
させる

再発防止：患者の前で言わない
職場環境の改善(報更相)

- 事故時の
ニールソン
を指導前に
実施開始時の
初回セッション
際に患者への
対応をしっかりと
共有する
- 患者の前で
言われた事
を知らせる
患者との
関係が
悪化した。
- 患者の
指導者
を指導して
知らせる
「本人の考え
がわかることだ
と患者に伝える
と声」を伝える
- 本人がやる
と大声でいい
（おれこれ
何をやらせたい
といふと
口がきかない
患者の心の中
を覗いて
患者に
聞かす
- 学生1人で
歩行訓練
させる
- 学生の
指導者
を指導して
知らせる

演習② No.2

指導者(teacher)の変更

- 他スタッフと関わる 5班
• ことで精神的フォローを行う(SV含め)
• ケースバイザーの変更
• 学生のやり易い方法を一緒に探る

指導者(teacher)の変更

- 今後の方針の再検討
• 学生への個別配慮

実践的
学生への理解

- 実習前の情報共有
• 学生、CV、SV間でのコミュニケーション
• 指導環境の調整

学生とのコミュニケーション

第三者の場がオープンなスペースでの指導を行うようにする

事前担当バイザーに役割の相違を周知、定期的なミーティング

学生の人柄を尋ねる、知るべきこと

自分のやり易い方法を探る、一緒に探る、例として文章作成など

学生がやるべきこと、例として、例を見てみる、参加する

他のスタッフと関わることで精神的フォローを行う(SV含め)

ケースバイザーの変更

学生のやり易い方法を一緒に探る

今後の方針の再検討

学生への個別配慮

実習前の情報共有

学生、CV、SV間でのコミュニケーション

指導環境の調整

実践的

学生への理解

学生とのコミュニケーション

第三者の場がオープンなスペースでの指導を行うようにする

事前担当バイザーに役割の相違を周知、定期的なミーティング

学生の人柄を尋ねる、知るべきこと

自分のやり易い方法を探る、一緒に探る、例として文章作成など

学生がやるべきこと、例として、例を見てみる、参加する

他のスタッフと関わることで精神的フォローを行う(SV含め)

ケースバイザーの変更

学生のやり易い方法を一緒に探る

今後の方針の再検討

学生への個別配慮

実習前の情報共有

学生、CV、SV間でのコミュニケーション

指導環境の調整

実践的

学生への理解

学生とのコミュニケーション

第三者の場がオープンなスペースでの指導を行うようにする

事前担当バイザーに役割の相違を周知、定期的なミーティング

学生の人柄を尋ねる、知るべきこと

自分のやり易い方法を探る、一緒に探る、例として文章作成など

学生がやるべきこと、例として、例を見てみる、参加する

他のスタッフと関わることで精神的フォローを行う(SV含め)

ケースバイザーの変更

学生のやり易い方法を一緒に探る

今後の方針の再検討

学生への個別配慮

実習前の情報共有

学生、CV、SV間でのコミュニケーション

指導環境の調整

実践的

学生への理解

学生とのコミュニケーション

第三者の場がオープンなスペースでの指導を行うようにする

事前担当バイザーに役割の相違を周知、定期的なミーティング

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について (90 分)
グループ	6 班

6 班 1

6 班 1

演習 ②

事例 ② > 立場: 指導者本人

<ハラスメント>

怒り出す
→ 11.07.11.5

<予想される背景・実体験など>

学生
① 元々比較的大きい交流なし緊張しやすい

指導者
② 怒ってほしい話しを聞いてきかなくて話を聞かされた
③ 実習生への理解が足りない

実習中の様子
④ 今以上に緊張し手振りが多くなり、言葉が通じない
⑤ 時間がかかりすぎて事前に伝えておく
⑥ 認識に差がある
⑦ 意思疎通の時間がない
⑧ 指導者の説明が聞き取れない

結果
⑨ 実習に参入できず
⑩ 自信を失った
⑪ 実習指導者の変更
⑫ 実習中止

<初期対応>

実習生の対応
⑬ 指導者から上司に相談(学校にも)
⑭ 同僚への相談

学校への対応
⑮ 教員と指導者の和性
⑯ 実習生と学校との関係性について
⑰ 実習生への対応

実習生への対応
⑱ 相手の性格を読んで対応を変える(言い方)
⑲ 実習生のペースに合わせて(電話)
⑳ 実習生へのやりとり
㉑ 実習生への理解

第 3 段階 (上司や教員) ↓ 学生主体に話し合わせる

<学生保護>

学生へ
㉒ 休んだり休む時間がある
㉓ 休んだり休む時間がある
㉔ 休んだり休む時間がある

自分自身
㉕ 休んだり休む時間がある
㉖ 休んだり休む時間がある
㉗ 休んだり休む時間がある



名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021年11月27日(土)～28日(日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について(90分)
グループ	7班

7班1

演習② 事例2: 柔軟な対応を必要とする学生への対応

7班1 立場: 指導者

ハラスメント

予想される背景や実体験等

初期対応

振り返り → 謝罪

→ ほめる

質問に対して怒っているだけで修正としない

指導者側背景

学生側背景

職場環境

11月11日
11月11日

101

演習② 事例2:柔軟な対応を必要とする学生への対応

17班 立場:指導者

学生保護

指導者の対応

関係 継続的
対応を模索
対応

学生の特性を
考慮し、個別取
組により、必要時
は柔軟対応
(ヤルい事情)

質問の回答に
対し、時間的対応
が重要

2人1組で、学生が
話し合っている中
で、必要に応じて
介入し、必要時
は柔軟対応

学生理解

問題解決

できていること
できていること
再確認

対応が
しなやか
やり取り

大事なのは
BGMの音
が聞こえないこと

質問、回答を
紹介する

質問者としての
立場を明確にする

質問の状況
を把握し、
指導者の意図
（目的）を明確にする

状況が
変わると
対応も
変わる

→ 一緒に進める

再発防止

指導者の
対応

柔軟な対応を
模索する
対応

今回の問題解決に
関係する
学生に
関係する

前回は
対応が
できなかった

今回の
対応が
できなかった

今回の指導者を
中心として
対応する
ようにする

他者の介入

他のスタッフ
からの指導

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 2【臨床実習指導者のあり方】ハラスメント防止について (90 分)
グループ	8 班

8 班 1

8班 演習②-1

事例② 柔軟な対応を必要とする学生の対応
立場: 部門スタッフ(指導者の同僚)

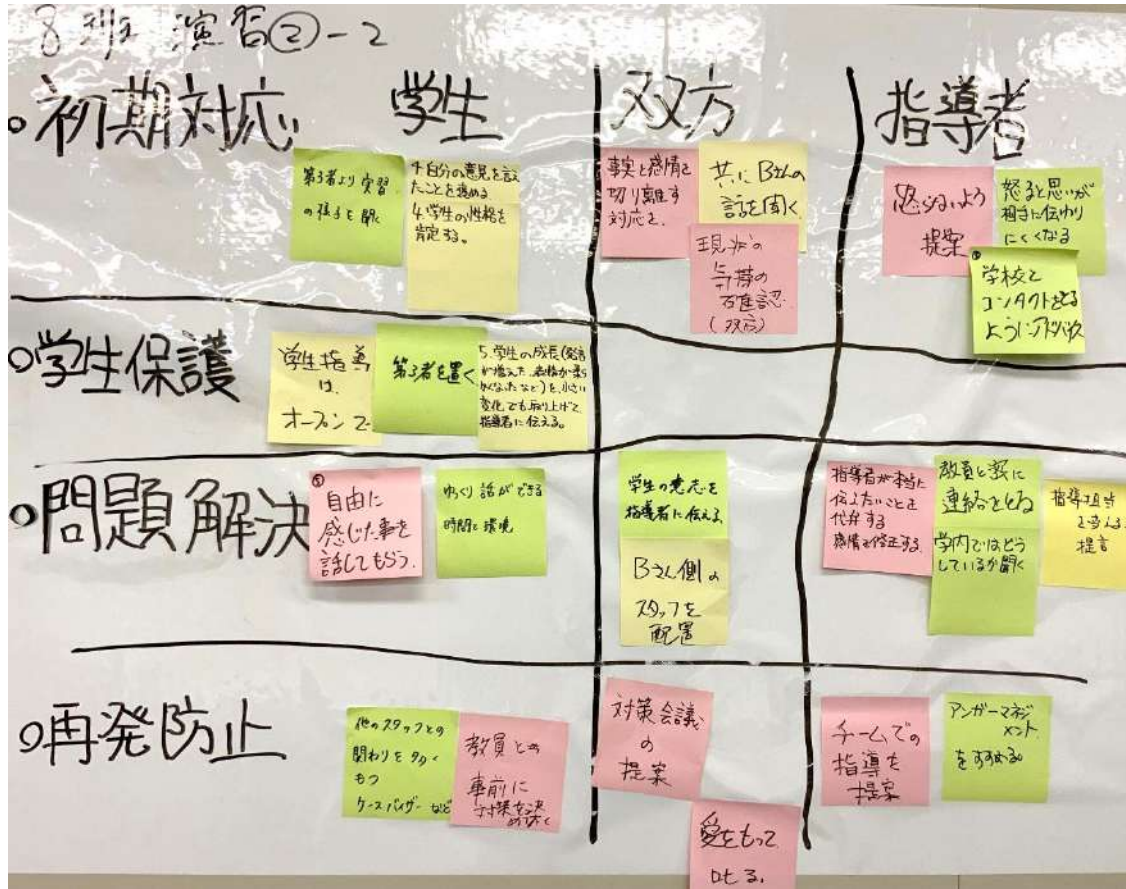
ハラスメント:

指導ではやく怒る点
高圧的な質問(予想)

予想される背景や
実体験等

	学生	双方	指導者
緊張感 ↓ 理解力	指導者への恐怖心 自身の発言と対応した経験がある	意思疎通がはかばかでない 会話と対応のほど相対との距離が縮小している	指導向き 怒る型 怒らない 思っている

熱心型 Type.



名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 3【臨床実習の到達目標と修了基準】(90 分)
グループ	1 班

1 班 1



3) 見学実習

子どもに慣れる
人と接する
こじが楽しい
リハビリ内の雰囲気を楽しむ
患者さんとコミュニケーションが取れる
患者さんや他部門スタッフとコミュニケーションの経験を持つ

理学療法士のやりかた、役割、業種を知りたい。
理学療法はどのようなものか、理解する
患者とコミュニケーションがとれる
患者さんとも交際のコミュニケーション

視診、触診で患者の身体に近づいてもらう。
動作補助の手法を知りたい。
矢口音吉と臨床もつなげる。

社会性をも身に付けることが出来る
輪廻転生 (Reincarnation)
おれいっ等
社会性を身に付ける。
患者さんに対する関心、接遇が有ることが出来る。

セラピストの一日の流れを見学する
情報収集のやりかたをみる (コミュニケーション)
リハビリの決まりの把握

組織の全体把握
患者、病棟の概要
コミュニケーション
どのようなことで質問してほしい。

訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションに関する実習

福祉用具、環境設定の様子
家の環境を知り、福祉用具や環境設定の重要性を知る

限られた範囲や物を使ったリハビリをみる
参加レベルでのプログラムの立案や実施の重要性を知る

CMやCWの役割を知る。

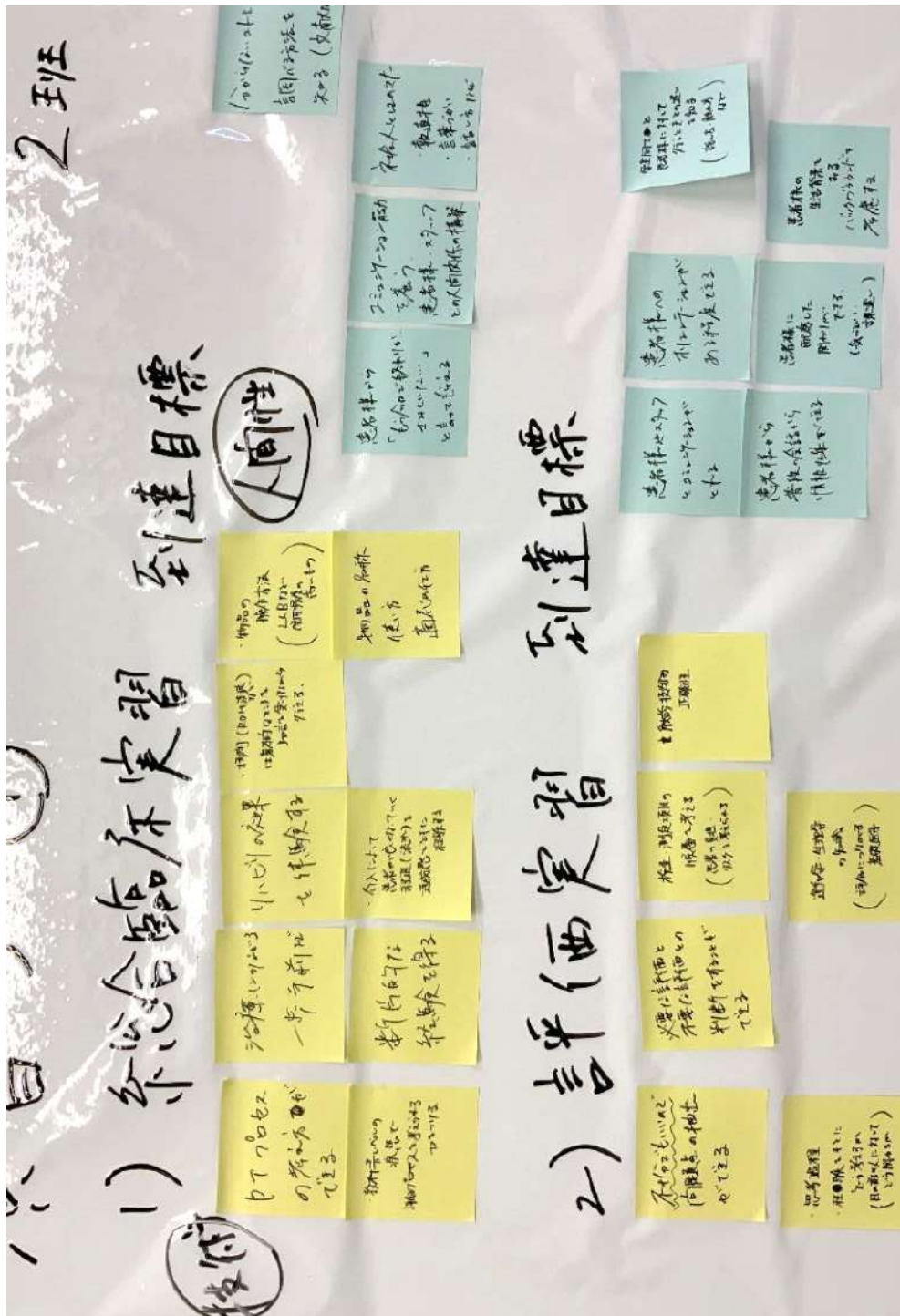
在宅リハビリのながさを知りたい。
医療保険や介護保険のながさを知りたい。

在宅生活を知りたい。

自立した必要性や内容を知りたい。
家族指導の様子

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 3 【臨床実習の到達目標と修了基準】 (90 分)
グループ	2 班

2 班 1



3) 見学実習 到達目標

専攻科生に
知識を
伝えること
が出来ること
を学ぶ。

知識と経験
を学びたい
ことについて
話し合える

疾患の名称
を知り

「あいさつ」が
できる
「あいさつ」に
対応できるように
コミュニケーション
能力を
高める

自分の専門
知識を
伝える方法
について学ぶ

患者様との
距離感を知る
(座る位置
など)

言葉の
ニュアンス
を理解し
て伝える
能力を
高める

チームの中
の役割
を知り

「リハビリ」の
意味を知り
「リハビリ」は
どのような
ものか
を知り

・ 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション実習 到達目標

どの時期に組み込むべきか？

通所 → 見学
実習
訪問 → 総合
実習

興味・関心
を喚起し
事前学習
を促す

自分の
生活環境
について
話し合える
こと

病院の中
の雰囲気
を知り
病院の
役割を知り
病院の
役割を知り

「リハビリ」
の意味
を知り
「リハビリ」
の
内容
を知り

自分の
役割
を知り
自分の
役割
を知り

評価
を受ける
こと
を
学ぶ

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 3【臨床実習の到達目標と修了基準】(90 分)
グループ	3 班

3 班 1

① 水準 I でリスク管理ができる (技術)

総合 ・リスク管理しながら治療ができる

評価 ・リスク管理しながら評価、プログラムの立案ができる。

見学 ・リスク管理の必要性が理解できる。

The whiteboard contains several sticky notes providing details for each category:

- 総合 (Red sticky notes):**
 - 「総合」 理学療法士としての理解による治療の一部を実践する
 - 「新病」 プログラム立案の70%が理解できる
 - 「実習」 実習で新しい治療法を学ぶ
 - 「評価」 評価の重要性を理解する
 - 「見学」 見学の重要性を理解する
- 評価 (Pink sticky notes):**
 - 「評価」 評価の重要性を理解する
 - 「見学」 見学の重要性を理解する
- 見学 (Blue sticky notes):**
 - 「見学」 見学の重要性を理解する
 - 「評価」 評価の重要性を理解する

① 社会人としての人間性

「臨床ワークシップ」のことで

・患者さんに寄り添った治療ができる。

・多職種と連携して患者さんをゴールまで

導く

患者様は各一歩
引、おっしゃる内容
に基づいて
合える人間

・患者さんの思いをきかす

患者さん
の声に耳を傾ける

・患者さん、スタッフと良好な関係を築く

患者さん
の生活と
関わる

・あいさつができる。

社会人として
あいさつ、相談
報告がしっかり
できる

・患者さんに興味、思いやりをもつ

見学
思案(対患者)に対し
コミュニケーションを
とれること

医療人として
臨み場面で
適切な対応
ができる。

1人で抱えきれず
人に相談できる
スキル

目的や目標を
しっかりと
決めて
行動できる
(目標達成の意識)
がある。

患者さん、社会人に
感謝の気持ち
がある

訪問・通所リハ

・利用者さんの生活を知る

・関連職種を知る。

・訪問・通所の役割
を知る

(総合実習のあと)

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 3【臨床実習の到達目標と修了基準】(90 分)
グループ	4 班

4 班 1

1) 総合臨床実習
到達目標: 安全に水準1が実施でき患者や他職種とコミュニケーションがとれる

2) 評価実習
到達目標: 基本的な知識をもとに指導された事ができる

The whiteboard content is organized into three main sections:

- 1) 総合臨床実習 (Overall Clinical Practice):**
 - 到達目標 (Learning Objectives):** 安全に水準1が実施でき患者や他職種とコミュニケーションがとれる (Achieve level 1 safely, communicate with patients and other professions).
 - 精神 (Spirit):**
 - 自己のコミュニケーション能力を高める (Improve communication skills).
 - 気配りをする (Show consideration).
 - 他職種間情報共有 (Share information with other professions).
 - 報告 連絡 相談 (Reporting, communication, consultation).
 - 知識 (Knowledge):**
 - リスク管理 (活動、動作介助) (Risk management (activities, movement assistance)).
 - 水準2の種類 (Types of level 2).
 - 総合的な分析考察、根拠の考察、活用能力 (Comprehensive analysis, evidence-based practice, application ability).
 - 基本的な知識 (基本的な知識) (Basic knowledge).
 - 医学用語を知らない (Don't know medical terms).
 - 技術 (Technique):**
 - 安全に運動療法がとれる (Safe exercise therapy).
 - 水準2の補助 (Level 2 assistance).
 - 自分の体を通じたコミュニケーション (Communication through one's own body).
 - 水準1の患者安全に前向き (Level 1 patient safety, proactive).
- 2) 評価実習 (Evaluation Practice):**
 - 到達目標 (Learning Objectives):** 基本的な知識をもとに指導された事ができる (Can do what was taught based on basic knowledge).
 - 相対的評価がとれるか (Can relative evaluation be done?).**
 - 評価の説明、詳細な問診 (Explanation of evaluation, detailed questioning).**
 - 評価者とのコミュニケーション、経験共有 (Communication with evaluators, sharing experience).**
 - 可動域やMMTの超適合(向上)を促しているか (Are you promoting hyper-range/improvement of ROM/MMT?).**
 - リスク管理(原因)の評価方法 (Evaluation method for risk management (cause)).**
 - 水準1の種類を知らない (Don't know types of level 1).**
 - 評価基準、正常動作の区別 (Evaluation criteria, distinction of normal movement).**
 - 言われた評価項目が実施できる (Can the evaluation items be implemented?).**

演習(3) 4班

No.2

3) 見学実習

到達目標: 理学療法士の仕事内容を理解する。
臨床現場の雰囲気を感じる

自己紹介
簡単な質問
(事前環境)

見学
評価、治療、
20:40-20:50の
場面見学して
PTの仕事と
理解する。

講義の学習と
知識の整理

実際の患者
様と見学の
機会を
合わせる。

理学療法士の
名前
病期と症状
③④⑤⑥

理学療法士に
関わっていない
様子を
みる。

評価項目の
確認
- どの項目を
確認する

元日、下
- 20:40-20:50
- 既知の
- 既知の

必要の
評価項目

見
- 事前開講
の基礎知識

見学
- 先生の教えと
基礎知識の
重要性を知る

理学療法士の
興味を
持つ

実際の現場
の雰囲気
を感じる
病状(絶叫)
の空気に
慣れる。

訪問リハビリテーション。通所リハビリテーションに関する実習

到達目標: 介護保険のリハビリを学ぶ。
維持期のリハビリを理解する

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 3【臨床実習の到達目標と修了基準】(90 分)
グループ	5 班

	知識・技術	対人関係
総合	基本的な理学療法が <u>助言の下</u> 実施できる。 ・低リスクの患者 水準Ⅰ	患者、他職種と良好な関係を築くことができる。
評価	指導者と <u>一緒に</u> 検査、測定ができる。 ・教科書レベル、カルテ、情報収集 ・統合と解釈(一緒に考えられる)	患者と適切なコミュニケーションをとることができる
見学	指導者の介入・流れを見る。意図を理解できる。	患者、他職種に「あいさつ」ができる。
< 訪問・通所リハ > PTの役割を知る ・ケアプラン、介護保険(福祉用具)		

6班2

3) 見学実習

理学療法士のあり方 仕事内容を理解する

コミュニケーション

見学
理学療法士が
どのような仕事内容
をこなしているのか
理解したい

① 患者に
自己紹介ができる

② 学び...意味
を身につける

③ コミュニケーション
を学ぶ

④ 理学療法士の
仕事内容を理解する

⑤ 理学療法士の
仕事内容を理解する

⑥ 理学療法士の
仕事内容を理解する

⑦ 理学療法士の
仕事内容を理解する

⑧ 理学療法士の
仕事内容を理解する

⑨ 理学療法士の
仕事内容を理解する

⑩ 理学療法士の
仕事内容を理解する

自己紹介学点務 コミュニケーション

・ 言方問ハビリティシオン。通所リハビリテーションに関する実習。

・ 対象者保
の理解。

・ 他職種との連携

・ プログラム作成過程を理解

・ しつこくシオン一者に

・ 福祉用具について
介護保険

・ 個人情報管理

コミュニケーション
模範見本で実践

理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

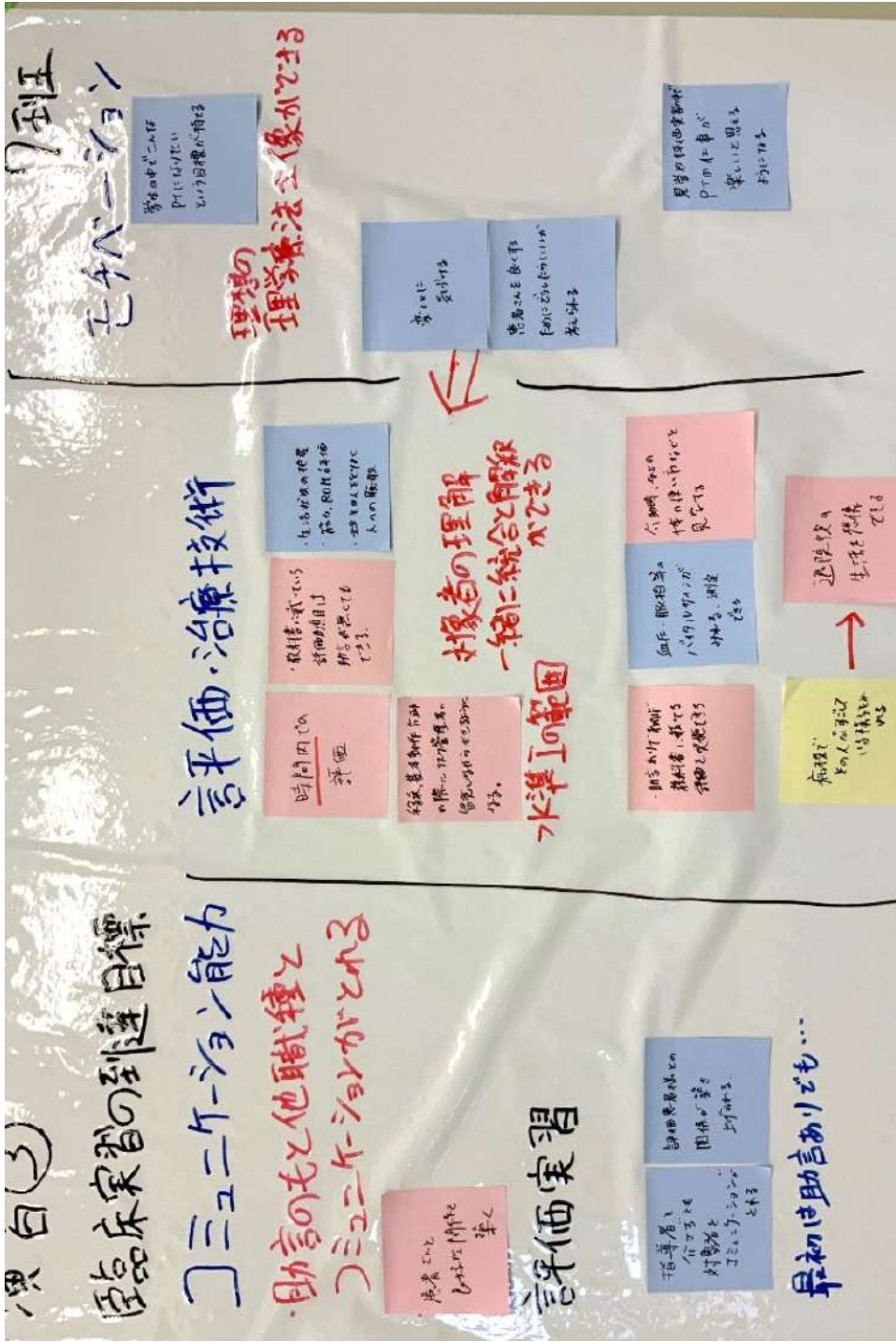
理学療法士
の仕事内容を理解する

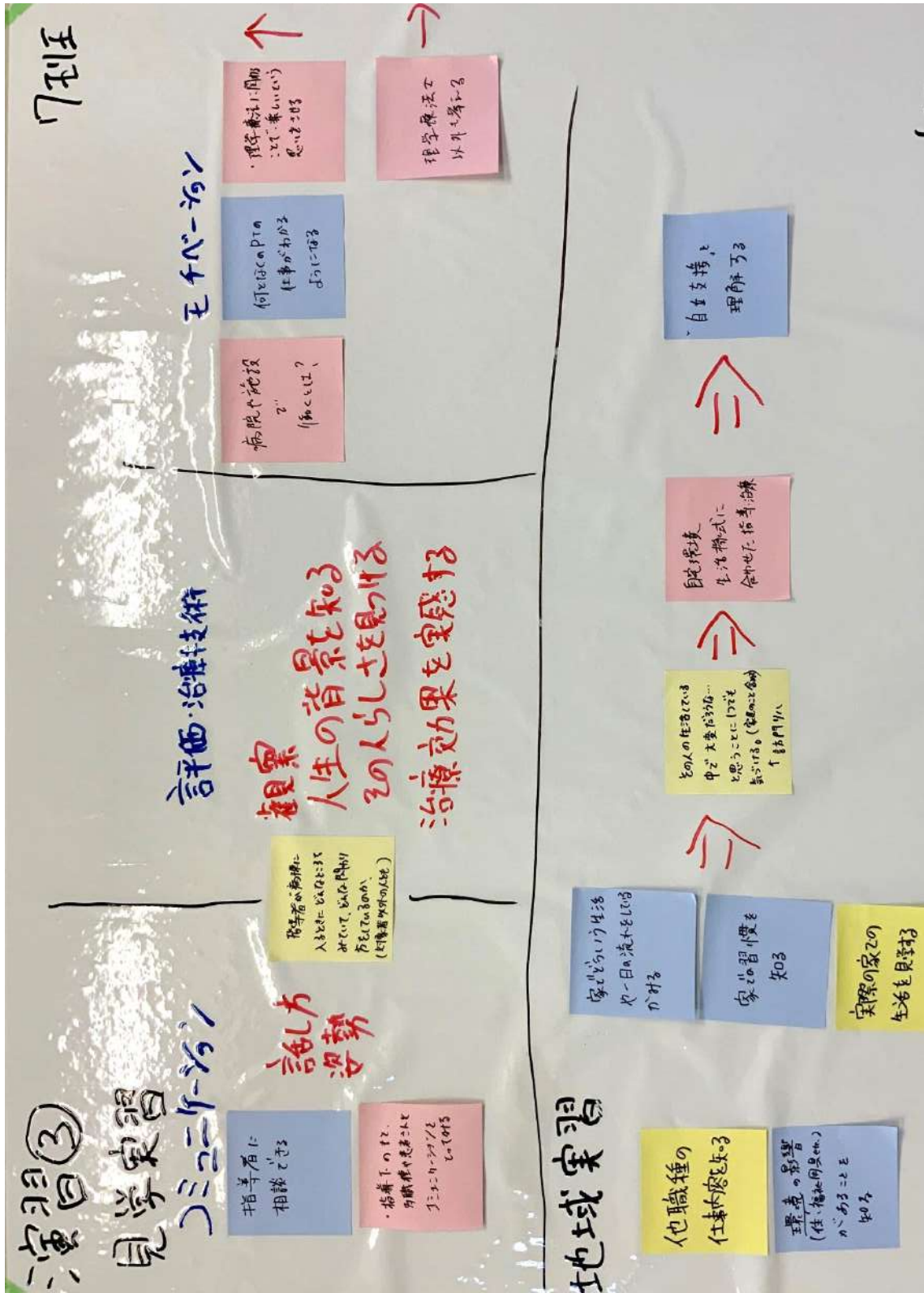
理学療法士
の仕事内容を理解する

理学療法士
の仕事内容を理解する

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 3【臨床実習の到達目標と修了基準】(90 分)
グループ	7 班

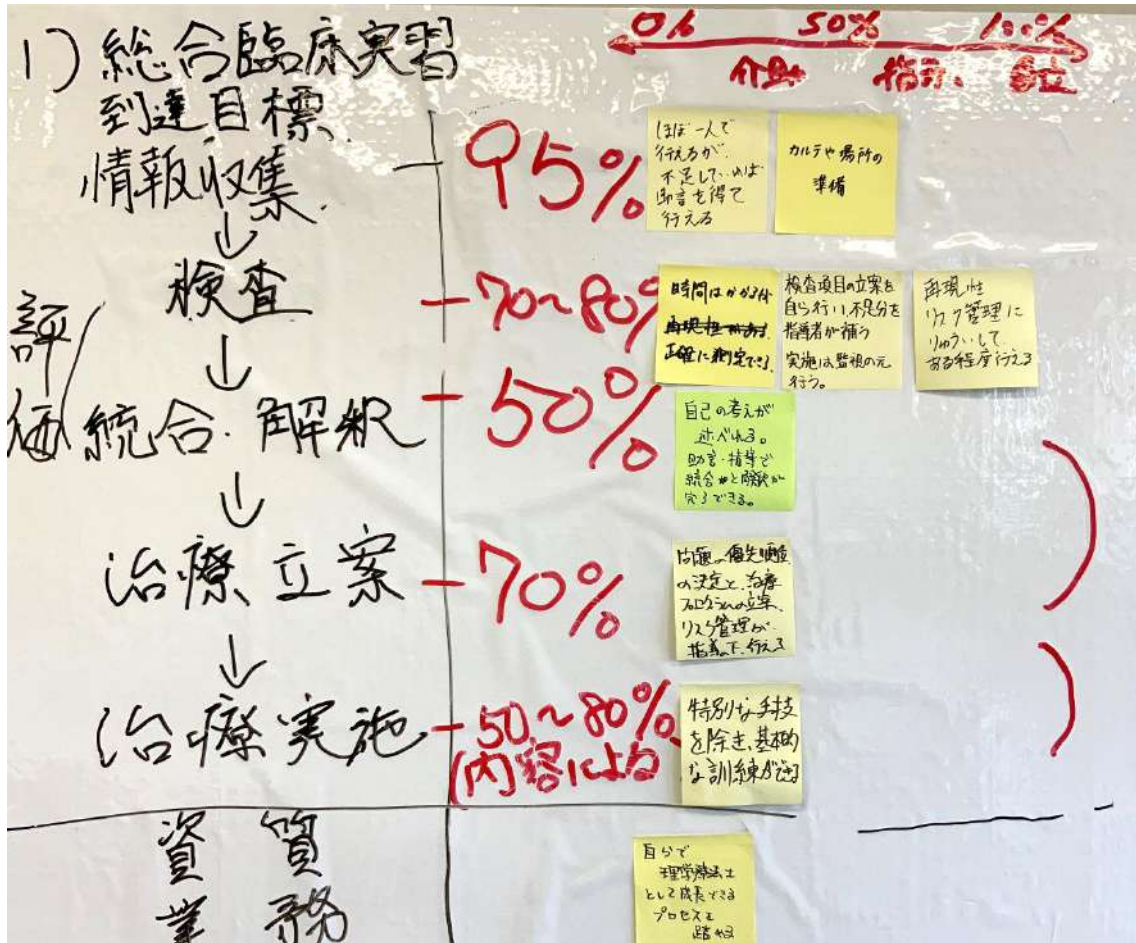
7 班 1

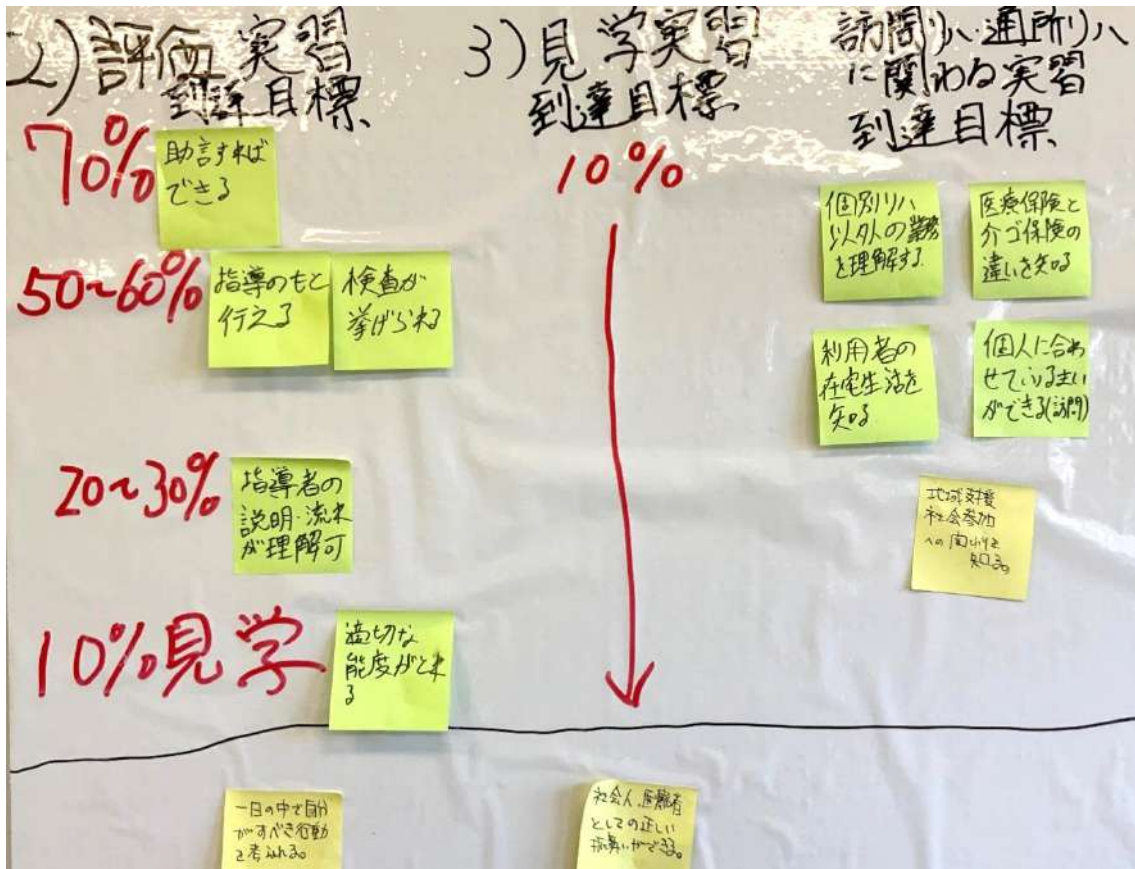




名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021年11月27日(土)~28日(日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習3【臨床実習の到達目標と修了基準】(90分)
グループ	8班

8班1





名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	1 班

1 班 1

臨床実習前後の評価

。事前にどのような情報提供が必要か。

態度

技術

知識

学生から

- 目標(学生) (態度 知識 技能)
- 興味のある分野や得意不得意などについて詳しくとPTと目標したのか。
- 学習意欲 (本人 学生 学校)

学校から

- 学校での態度や学習意欲
- 学生との性格
- コミュニケーション能力がどれくらいあるのか
- 実習生のコミュニケーション能力の幅

学生から

- 学生がやること 心遣いなど
- 学校で評価等の練習をしていたか
- 学生がやること (学生)
- 学校での授業態度や取り組み姿勢

学校から

- 学生がやること (学生)
- 学校での授業態度や取り組み姿勢
- 説明出来るのか 実行出来るのか

- 知識 理解 実践
- 知識 理解 実践
- 知識 理解 実践
- 知識 理解 実践

演習④ ・学校養成施設と実習施設の連携

1班②

	学校	実習施設
実習前	実習生に対し 必要の配慮の 共有 SCE 不十分な所 良化案 1ヶ月会議を 開催する 実習の訪問 面談	必ずバイパ 会議に参加 していく
実習中	実習中の 理解度 適宜に施設と 連携すること LINEやX-メール などで連絡を とる 1ヶ月と解決 法を講ずる 内催課題の （毎週実施）	実習中の 生活態度 指導（その） 修正改善の 取り組み 実習生の 生活態度の 共有 週毎に学校と 連携をとり 学校へ相談 する
実習後	実習全体の 理解度 実習直後に 学生からの振り返り を行い報告	どのような 意見や改善点 を報告したか 評価表に 反映させた こと報告する

学生が実施する行為について
・実習施設でどのような評価をして患者に
実施するか。

・現在どのようにしているか。

態度

患者さんへの正しい評価をする。それにより信頼関係を築ける。

患者さんへのコミュニケーションが大切。

知識

施設長先生や21年卒の先生との共有

学生同士での知識の共有

技能

舌の検査、喉の検査、聴力の検査、視力の検査、触診、叩診、聴診、嗅診、問診

標準化された手順をこなす

実習生が患者の立場から考える

段階的に協同参加実施
実習生

学生と指導者が共に患者の身体を触れながら学んでいく。

ケースの患者の症状、検査結果を共有し、ケースの詳細に学ぶ。

患者、他スタッフとのコミュニケーション

5分間の評価を目的とした説明が自由にできる

教科書だけでなく、患者の体験談も共有する。

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	2 班

2 班 1

演習 4 NO1 <急性期> 2班

臨床実習前後の評価

1. 事前(前)にどのような情報提供が必要か?

態度

- 学生から教員からのPTL 持ち長、短所
- 施設内での情報
- 自己紹介 YouTube

知識

- 講義 教科書
- 救急処置の教科書
- PTL の役割
- 実習地への事前情報提供

技能

- 病院の形態 指図
- ルート管理 負荷量の調整
- PTL へ 提供
- 救急処置 (指示内容) オート
- 学生への事前情報提供 (後述)
- オナーと動画で教える
- ↑ 指示内容の欠け別 同時期中

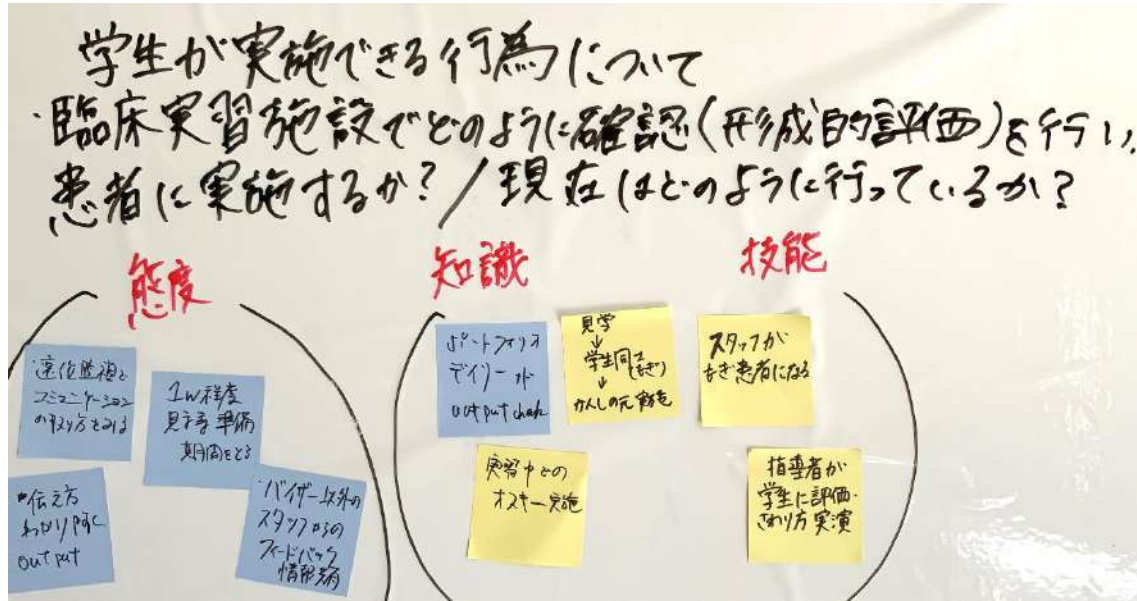
2. 質問とを因するため、どう連絡を因れば良いか?

中

- 事前に情報共有 経路
- ↑
- Check list を振り分け → 知識、技能、英語
- ↓
- 休みの日に学生同士で練習
- ↑
- 実習中、休みの日を利用して先生(PTL) 指導を受ける
- ↓
- 実習後に教員が動画、指導者、学生のフィードバック

後

- 実習地訪問の先生に実習の様子を聞いてもらう(PTL)



名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	3 班

3 班 1

◎臨床実習前後の評価

事前に詳しい情報提供

- ★ 第三者から見た学生像
 - ↳ 学力、技術面、考案力、性格
- ★ 共通した評価表を用いた自己評価
- ★ 実習施設側からの情報
 - ↳ 年齢層、主訴疾患など

事後

どう連携を図るか

key word:

最終一貫して使える
客観的な評価ツール

前、中、後
評価項目の統一
の仕組み、課題の共有
が重要

学力
学生自己評価
と授業教員から
評価した内容
知識、技術、性格

前
学力、技術面だけでなく、
互く、互に互に情報
が欲しい

態度の項目ご
評価が定まら
ない

OSCEの中
で、学生が情に
評定している
項目

知識
科長、科員
分野

知識
科長、科員
分野

3班2 No.2

① 学生が実施できる行基化のつ

形成的評価 (急・回) + ミニミー合表

<現在>

現場で実技の確認をしてから
患者さんに触れられるしレベルが判断

<理想>

OSCEの評価項目も施設側も
知能

「見学+同考+実施」が、
ルーブリック評価で統一した
水準を用いて評価できる。(水・少・五)

実習前
事前 担当者教員から
学生に事前に
目的や評価の
内容、日程を
説明する。

・バザン会議などで学生をたてて
教員とも顔合わせができる場がある。

実習中間
④ 定期的な
電話で状況と
報告できる

・学校-施設間での連絡ボードを任

実習後
施設側にもボードがほしい
→ 全国共通のルールで

⑤ 実施後の
振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り

⑥ 実施後の
振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り

⑦ 実施後の
振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り

⑧ 実施後の
振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り
実施後の振り返り

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021年11月27日(土)～28日(日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90分)
グループ	4班

4班1

臨床実習前後の評価

事前 (にどのような情報が必要か)

○学校が学生のことをどう言評価しているか

○実習でどこを成長させたいか

【質向上を図るため、学校養成施設でどう連携を図れば良いか】

実習前 ○学生毎の実習方針 ○実技試験の内容

実習中 ○学生自身の達成目標 達成度合

実習後 ○学生がその後どう変化したか、学校→施設
○今後に期待するところ 施設→学校

どのような小まめな情報が必要か
活動等

はるかに早くから相違点の
内容

態度、意欲 (学内、実習中)
疑問を
もてる能力

どのような事に
興味があるか!

本レポートは
自分で作成!

教員が
目標とした
到達地を

相違点
能力

コミュニケーション
時の表情
しぐさ

実技試験
内容
評価

水準
1, 2, 3の
状況

前施設か
おぼろげ
なでの形成過程
が読

文章の
今で
技術の
トータル
な、下、こ

会話能力

こまごまの
症例

学校が考えた
学生の
指導方針

基礎知識
(解剖など)
基本検査の
得意、不得意

学校が考えた
学生の
指導方針

トータル
な、下、こ

運動療法を
重視した
注意点は、
考えられるか、

演習④ 4班

No.2

〔臨床実習施設をどのように確認(形成的評価)を行うか、患者に実施するか?〕

学生ごとに.

全実習を通じ共通化。水準を指標とした。
チェックリストを用いる。

(前指導者や学校を共通化
技術の質の評価としてその)

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	5 班

5 班 1

☆事前^にどのような情報提供が必要か

技能	知識	態度
<ul style="list-style-type: none"> OSCEの動画 評価の数値化 振り返り後の結果 	<ul style="list-style-type: none"> CBTの結果 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の学習のまとめ方 意欲・性格 学校生活の様子(授業中・あいつ)
<p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習前評価の結果を提供 評価項目を具体的に 得意・不得意 興味分野・伸ばしたい項目 		

☆質向上のための連携

共通	技能
<ul style="list-style-type: none"> 実習後評価の内容(指導不足も把握したい) 電話で情報共有(担当窓口も分かりやすく) 不十分だった内容を学校へ伝える(今後の学生の課題) 到達目標を共有する(事前に) 評価指標を統一する メールやワグールを利用し、タイムリーな情報共有の手段を確保(連絡の垣根を低く) 	<ul style="list-style-type: none"> OSCEに講師として参加する

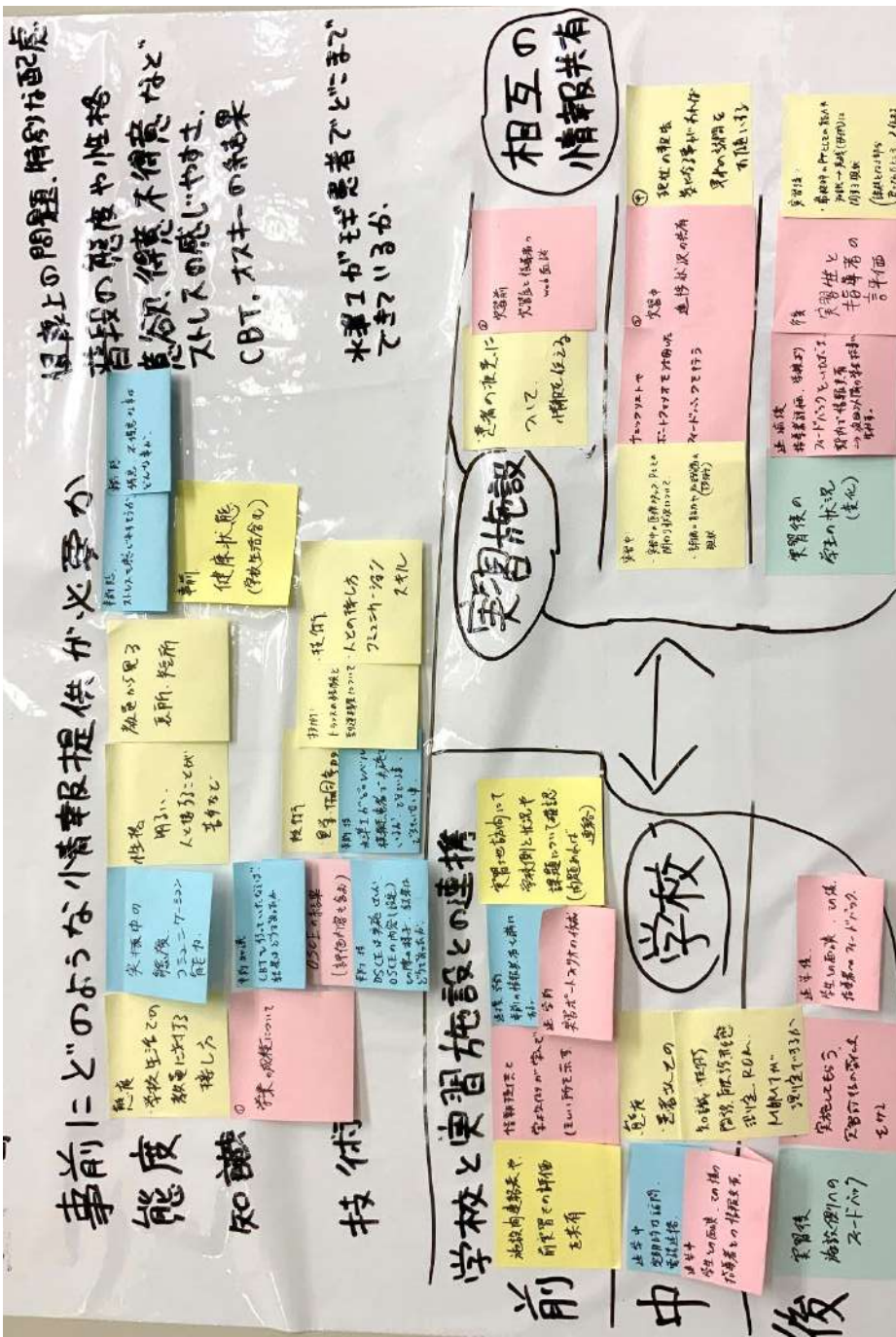
演習④ ^{◎臨床実習において学生実務で力になるか？}
学校と実習施設でどのような確認を ^{5 班王.}
天かみ実習?

- ・ 模擬患者と一度やってみよう。
- ・ 臨床思考プロセスはバイザーと一緒に行う。
- ・ チェックリストの作成 (教員・バイザーの評価のかりとなくす)
重点的な指導のため
- ・ 口頭確認 → 見学 → 実際にやってみよう といふ段階づけ

教員に実習場面 (臨床・バイザーとのやり取りなど) を
みてもう

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4 【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	6 班

6 班 1



6E15

実習施設での形成的評価

態度

チームで評価

態度
他のスラム?
の言評価
してもらう。

ポータルサイト
制作、活用
確認。

知識

既
実習→協同校加→既
毛形ハ、お片の並
お片の並
お片の並

既
実習中に
実習前準備
→
実習

技術

既
お片の並
お片の並
お片の並
お片の並

既
実習前→後
お片の並
お片の並
お片の並
お片の並

既
お片の並
お片の並
お片の並
お片の並

既
お片の並
お片の並
お片の並
お片の並

既
お片の並
お片の並
お片の並
お片の並

中間言評価 自己到達言評価表 → 実習前に作成したものを活用

学校での言評価表 (スキー) などを実習施設と
共有して活用する。

自己言評価と他者言評価のフィードバック

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	7 班

7 班 1

演習 4 7 班

● 事前にとのほうの情報が必要?
 <実習施設> — <学校>

知識

技能

態度

OSCE の評価項目
と結果

NO.1 実習の到達像

性格 (克欲係)

学校からの客観的な印象
 ・実習生の主観的なこと ...

学生が「まじ情報」

PTI: どのくらいか

知識の習得
実習生の到達
レベル
評価の観点
チェックリスト

性格、不機嫌
興味のあること

作業期間に
到達したい目標

体力面の問題

学生の健康面
(配慮心)

学校への学校
実習生と教員様との
関係構築
チェックリスト

学校から「学生」に
評価

・質向上を図るため、学校・養成施設とより連携するが、

(実習前)

実習前
品物の種類や
取り組む業務
を事前に
到達レベル

学生からの
質問や電話
を事前に電話
(実習前)

(実習中)

- ・客観的な実習の進み具合、学生の態度
- ・主観的なミス、実習の達成度

(実習後)

実習後
最終的に到達
レベル
終了後、学校に
メール

事例に基いた情報
と実習後の感想を
・感想文・文章化に
する。(次の施設
へ送付する)

・「00年実習施設」といふように確認を行い、鬼者に実施するか

(知識)

接客名や
倉庫名、ope
等記せる

自分で学ぶべき
事が見つけれる

(技能)

- ・リスト管理が実践できる。

動作観察
業
分析
評価項目

→一連の流れがわかる。

複数のリスト
から意見を聞く

(態度)

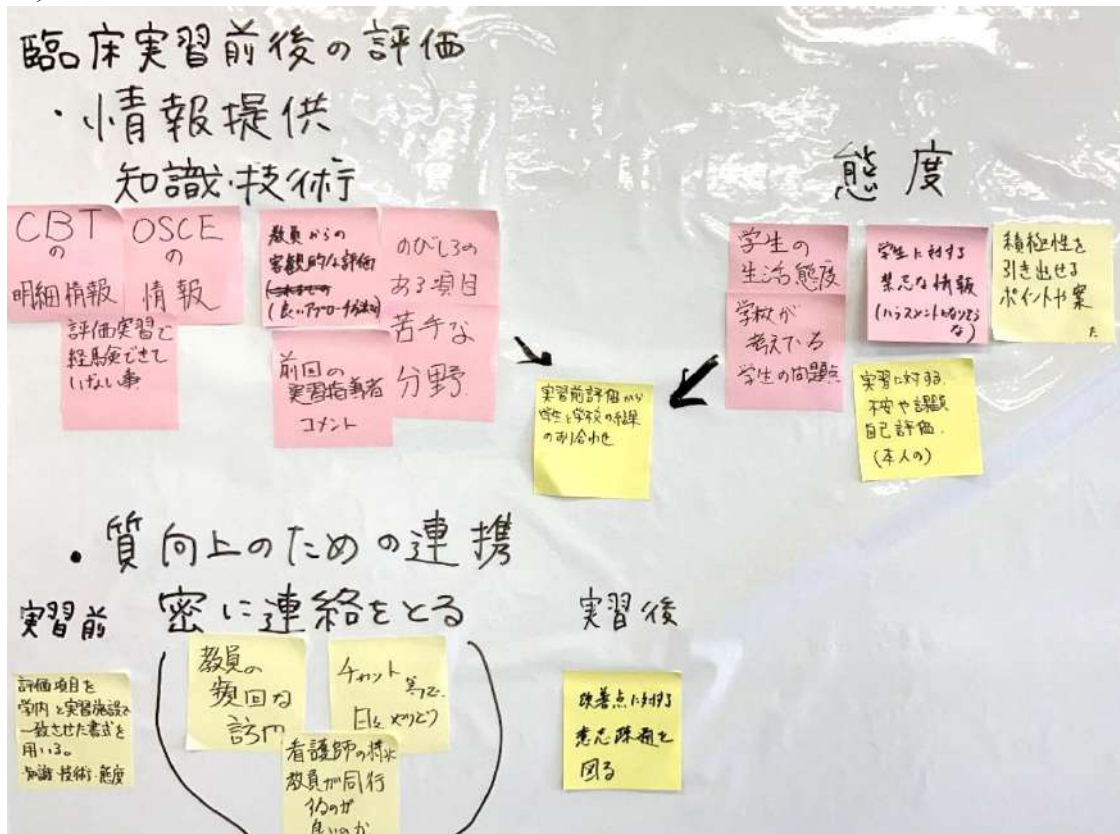
- ・相手の反応もわかる
言葉のキャッチボールができる。

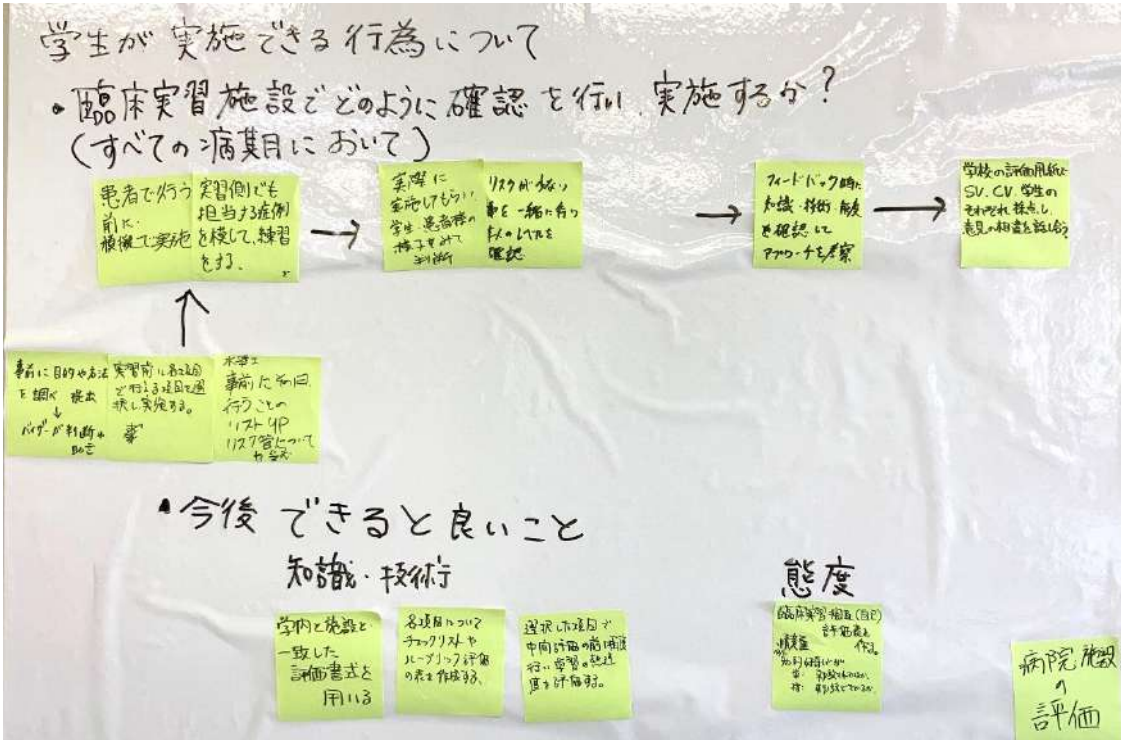
見学、共同参加、実施の
段階でつらいく!

水準リストを作成し、活用する。

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 4【その他臨床実習に必要な事項】 臨床実習における学生評価 (90 分)
グループ	8 班

8 班 1



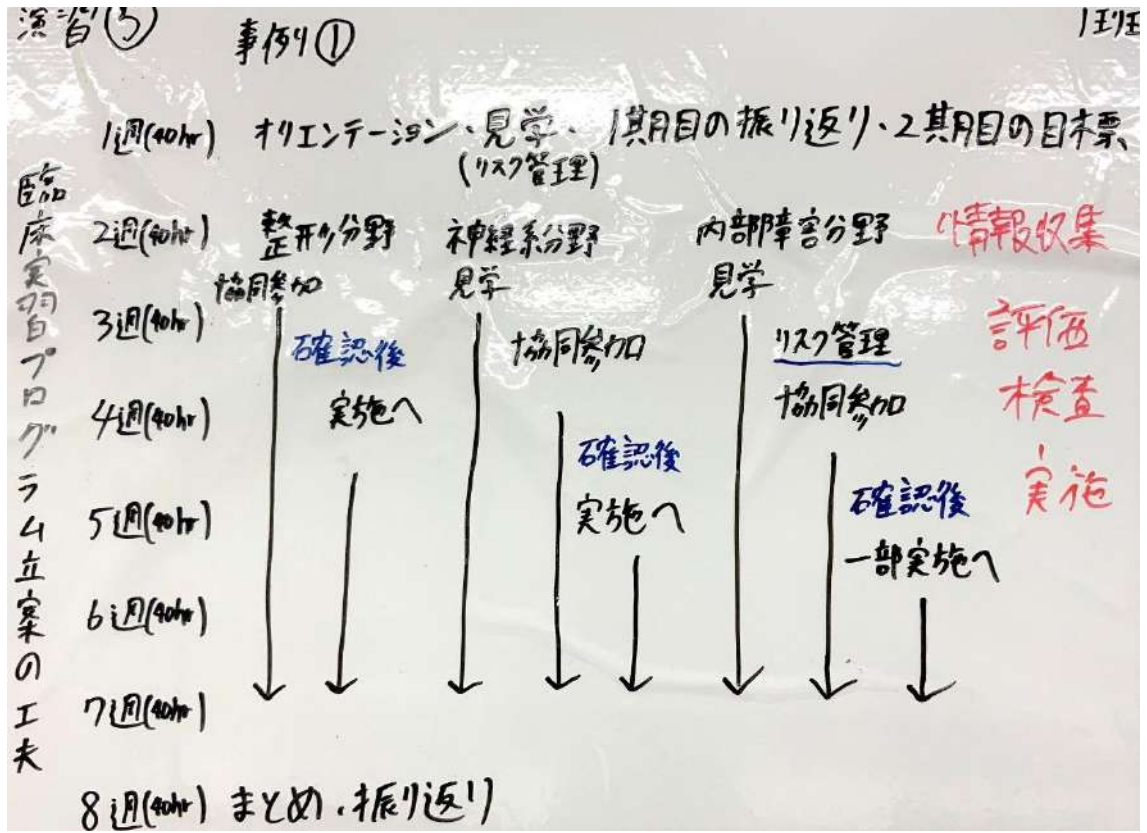


名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	1 班

1 班 1

規定の時間を超える要因

何が規定の時間を超える要因とされているか	バイザー	学生	学校
<p>性差 (セムハラ) 治療プログラムの共有ができていない</p> <p>治療プログラムの共有ができていない</p> <p>治療プログラムの共有ができていない</p>	<p>学生の授業に集中していない 課題を出さず</p> <p>全ての患者の薬を一緒に処方しようとする</p> <p>授業の進度が遅い</p>	<p>履修科目が重複している 実習時間内での準備時間が足りない</p> <p>いいのがあるけど質問の時間がなくなる</p> <p>十分な説明や質問に対する回答ができていない</p>	<p>教員の授業が単調すぎる</p> <p>課題の書き方が厳格に決まっている</p>
対応策 (工夫)	<p>実習外の学習の状況を把握し、必要に応じて対応する</p> <p>学生がその場で理解出来る範囲で少しずつ教える 資料を渡すか提示をする</p>	<p>見守りをする 余裕を持って 質問の時間を確保する</p>	<p>課題の量の見直し 授業の進度の見直し 規定科目の書き方の指導</p>
<p>学生の特性を熟知</p> <p>学生の理解度に合わせて説明やスピードをおこなう</p> <p>終了時間を明確に提示する</p>	<p>余裕をもった対応</p> <p>動画を使う (撮影)</p> <p>治療中にフィードバックを繰り返す</p>	<p>自己研鑽の促し方</p> <p>良い所は (採り) 学生自身で一日の中での課題のアウトプットを促す</p> <p>モチベーション向上</p>	<p>学生自身で一日の中での課題のアウトプットを促す</p> <p>チャットシートを提示し、足りないところの課題について教える</p> <p>言葉に対する検索方法を提示してあげる</p> <p>おもしろい勉強できる文献を教える</p>



名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	2 班

2 班 1

〇規定の時間を超える要因

環境

- 指導者が業務を処理できていない
- 学生が実習からいって施設の業務が疲れた
- 業務量が増えすぎていない
- 収益があまりない
- 学生が来た
- スタートバックが早い

指導者

- 指導者の怒りが入ってきた
- レポート課題の量が多い
- 指導者の知識が不足している
- レポート課題の意思疎通ができていない

対応策

複数指導

- 複数指導で行おう
- 複数人のスタッフで指導を行う

業務量の見直し

- 業務量の見直し (単数指導)
- 講習会・研修への参加
- コミュニケーション (その特長・強み・弱みの把握)
- 指導者の取得単位と連携
- 協定対策

留意点

事例: ①急性期の一般総合病院

1 週: (40hr)

- オリエンテーション (スケジュール、ロー・ヘル・ル)
- 見学 (コミュニケーション、全疾患)
- 見学→協同参加の左
- 血圧測定、簡単なものを実施

2 週: (40hr)

- 協同参加
- 整形外科協同参加開始 (カレント)
- 自分(指導者)の得意分野について評価を必ず一緒に実施
- 評価の再根拠 (ROM、歩行) など

3 週: (40hr)

- 整形外科患者の実施
- 他の指導者の疾患担当開始
- 神経、内科疾患の協同参加

- 内向的見学の関係でなかなか
- 25歳未満整形から含めて
- 足性期早めから整形に入院して休ませる
- 血圧測定が始めたり、いじらなくて
- 水準Iを出来るだけ経験しておく
- CFに参加可
- 指導者の取得単位と連携
- 協定対策

演習5 No.2

- 4週 (40hr)
- 5週 (40hr)
- 6週 (40hr)
- 7週 (40hr)
- 8週 (40hr)

整形疾患の実施



実習全般の
中間評価
(質問、不満足
の点等)

他部署員
(デイ、訪問)

他部門(Dx
N、OT)と
密な情報収集

整形以外の
複合性疾患の
患者と協同参加

学生の
評価

評価の再確認
協同参加の
中で確認

最終の
自己評価

留意点 (フィードバック課題の内容)

教員とTEL
現状確認
中間

患者、スタッフと
話せば
ほめていく

中間で
自己評価を
してもらう

デイリーレポート

毎日、1症例をまよめて
一緒に話す。(最大15分)
業務時間内に
午前、午後1回ずつ

自己研鑽の促し方

今後のスキル
レベルを把握
おく。
(伊志の思考等)

週ごとに
目標を出して
もらう

一緒に
問題解決
を図る

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	3 班

3 班 1

何が規定を超えた要因

① 実習時間内にまとめる自己学習の時間が
ない。

② 課題 与え方が不明瞭 → 多くなる
(LPO-1作成など)

③ 業務時間内で言調整できない。

対応策

自己学習時間を実習時間内に設ける。

実習期間スケジュールを言通す

臨床場面でFB

バイゲ会議を活用し、指導者の
認識を高める。

学生が悩みを挙げる。

要因

① 学生の能力に
合う課題を出
す。アドバイスに
時間がかかり
すぎる。

② 学生の能力
が把握できず
過剰な学習

③ 業務がつか
ない。時間内
にアドバイス
が難しい。

④ 従来のLPO-1
課題 (ワーク、
事前準備)

自己研鑽

文献を 提供する	「7月」
「バイゲ」 一輪に「研鑽」 と言ふ	「研鑽」で 「研鑽」を 見せる

① (指導者)
業務の中で
実習のやりかたを
時間をつくらせ
たい。

② 実習をうける
施設側の
準備ができて
いない。

③ 実習時間内
に説明不足
(LPO-1作成
のやり直し)

臨床場面での
指摘しにくい
理解の程度を
把握する

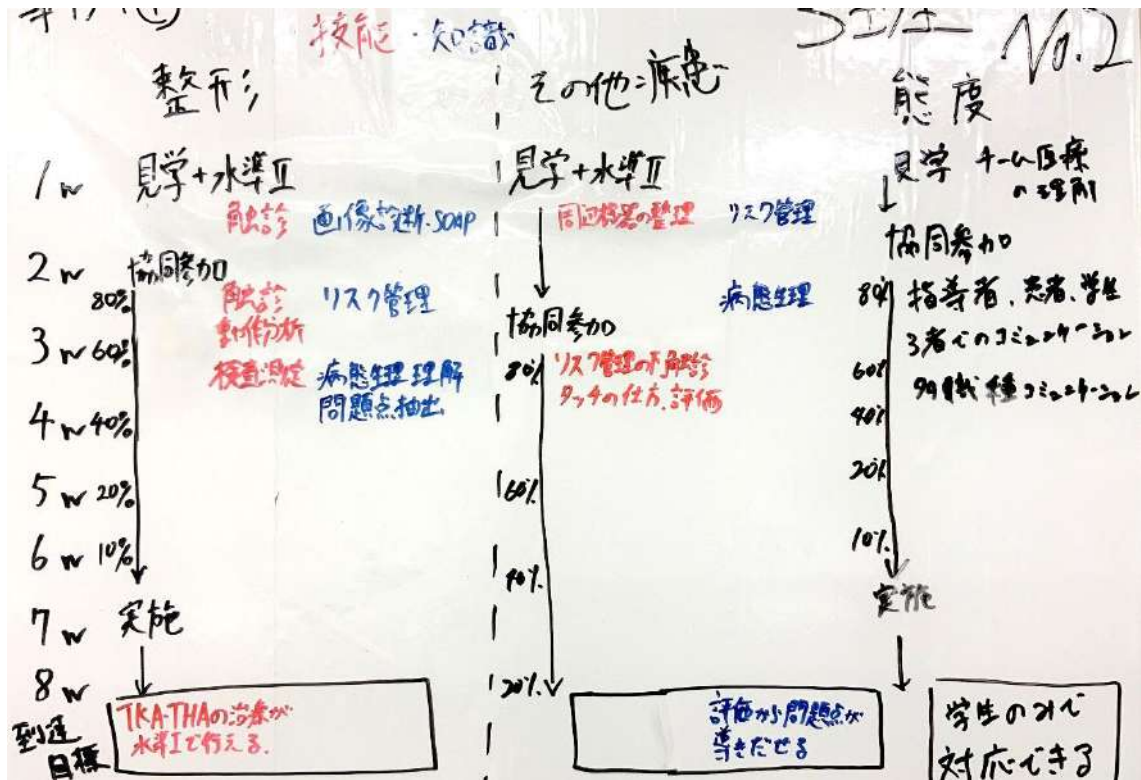
① シフトを戻して
毎日のやりか
たをLPO-1に
する。

② 学生の能力に
合う課題を出
す。

③ バイゲ会議
を活用して
指導者の認識を
高める。

④ 学生の悩みを
挙げる。

3班2



名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	4 班

4 班 1

演習 ⑤ 4 班 No. 1

〔規定の時間を超える要因〕

- ① 課題が多い
- ② 臨床推論を欠く
- ③ 指導者が実習生と関わる時間が少ない(フィードバック等)
- ④ 学生の理解力
- ⑤ 他サービスとの連携不足
- ⑥ カリキュラムの問題

〔対応策〕

- ・ 実習指導者講習会を受けることの出来る職場環境、業務の調整
- ・ 学生の負担を減らす(課題、スケジュールの調整)

演習① 4班 No. 11

	技術	知識	精神	継続	
1週	見学の機材 準備、可成り 丁寧な説明	色々のPTA 初歩動作 リハビリ場面 見学	整理の存在 用、評価他 見学の技術 を練習	比較的、 会話可能な 患者様も 多し	1w毎に 学生の様子 を聞く
2週	水曜、日曜に 半日 水曜、日曜に 半日	色々のPTA 初歩動作 リハビリ場面 見学	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	利用者、PTA とPTAの 関係	自身の 考えを 整理
3週	神経系 リスク 補的	神経系 リスク 管理 検査項目	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	意思疎通 困難な患者 の見学説明 会話、声かけ	自身の 考えを 整理
4週	神経系 治療 補的	神経系 治療 補的	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	意思疎通 困難な患者 の見学説明 会話、声かけ	自身の 考えを 整理
5週	神経系 治療 補的	神経系 治療 補的	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	意思疎通 困難な患者 の見学説明 会話、声かけ	自身の 考えを 整理
6週	神経系 治療 補的	神経系 治療 補的	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	意思疎通 困難な患者 の見学説明 会話、声かけ	自身の 考えを 整理
7週	神経系 治療 補的	神経系 治療 補的	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	意思疎通 困難な患者 の見学説明 会話、声かけ	自身の 考えを 整理
8週	神経系 治療 補的	神経系 治療 補的	PTA情報集 (A19、西、佳) 知識を 整理	意思疎通 困難な患者 の見学説明 会話、声かけ	自身の 考えを 整理

自己研鑽の促し方

- OT、ST
と
同じ
- 患者のほかに
E理解し
思いやり
持つ、持つ
- 言語の
向盛に出る
ことを促す
- 課題を出して
解決させる
- わかること
事について
どう思うかと
聞く
- どうしたら
良いかと
自分でも
考える
- ほめる
認めさせる

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	5 班

5 班 1

1. 規定の時間を超える要因 (指導者側)

- 言葉題を多く出しすぎている → 取り組み時間を決める・内容を限定する・課題を出さない
- 言葉題への取り組み方法の共有不足 → 一緒に取り組み・見本を見せる
- 指導が熱過ぎる → SV(第三者)が把握
- 指導者の業務過多 → 職場での業務調整
バイザーを増やす・分担する
指導基準をつくる (FB時間) を決める・FBのポイントを整理
学生の一日のスケジュールを共有

2. 自己研鑽を促すにはどのような工夫ができるか?

指導者は学生の強みを伸ばし、自己の強みを引き出し、意欲を高める	自分の工夫を待たず、自分からどうにかしてあげよう。	モチベーション↑ 成功体験を
自己な力感を促す (そこを伸ばす)	指導者も分岐点には一緒にいるという姿勢を見せる	

プログラムの企画・立案・実施・評価・改善 (事前事後の振り返り)

在宅実習プログラム立案の工夫

留意点

- ①w 1分野に偏らぬために
- ②w セクションを時期で分けよう
- ③w 〇ただし、セクションごとで学んで欲しい目標は設定
- ④w
- ⑤w 在宅 (今後の生活を想定)
- ⑥w (老健・訪問) (しやすために)
- ⑦w 回リハに戻って
- ⑧w 在宅実習を活かす!

初期評価

- ・みえない疾患を優先
- ・バイザー間で共有
- ・協同参加(得意にがて)
- ・1wごとの目標もたてる

中間評価

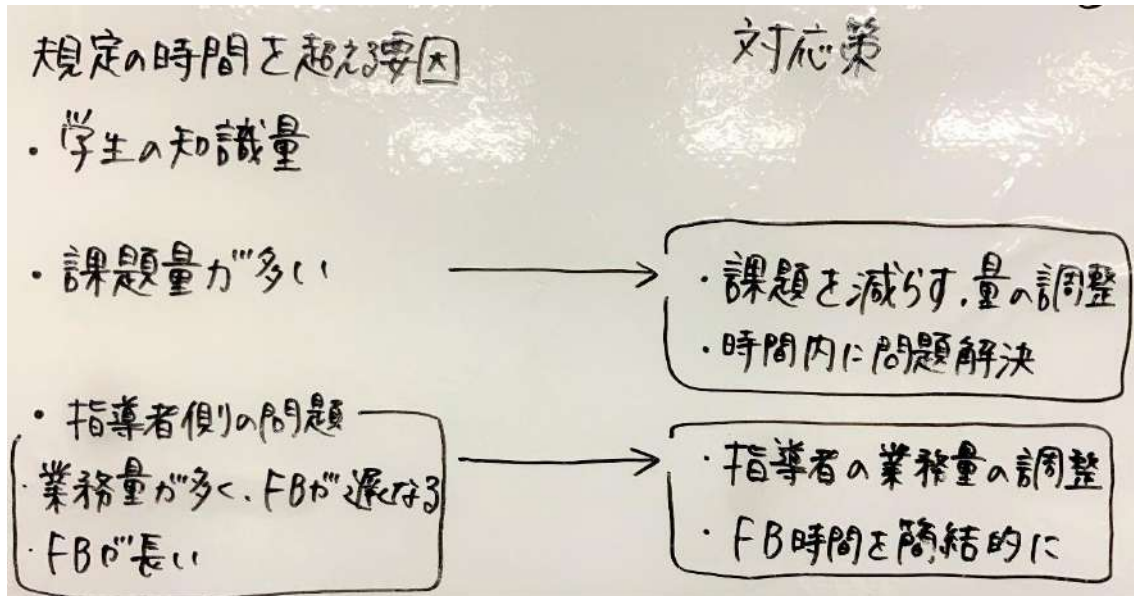
- ・けんけんを上げる
- ・医療・介護の差を知る
- ・FBは成長に合わせて
- ・興味のある分野をのぼす

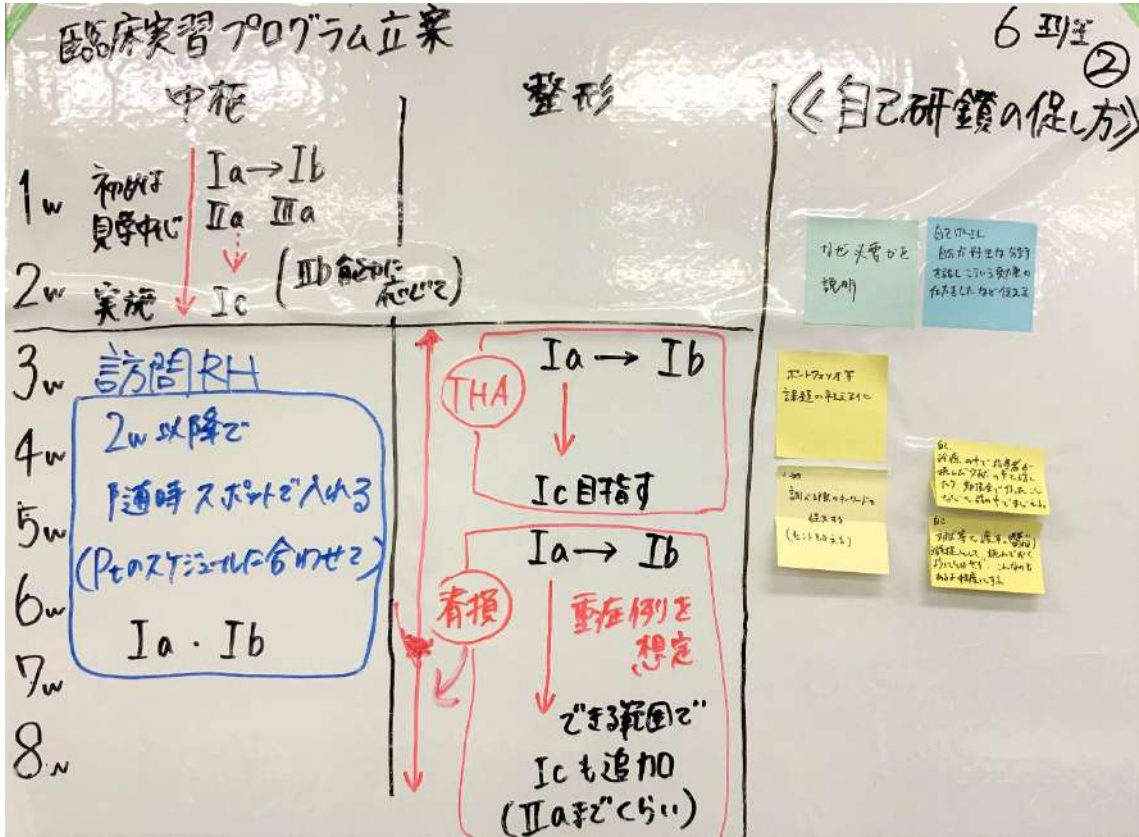
最終評価

- ・施設間での情報共有

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	6 班

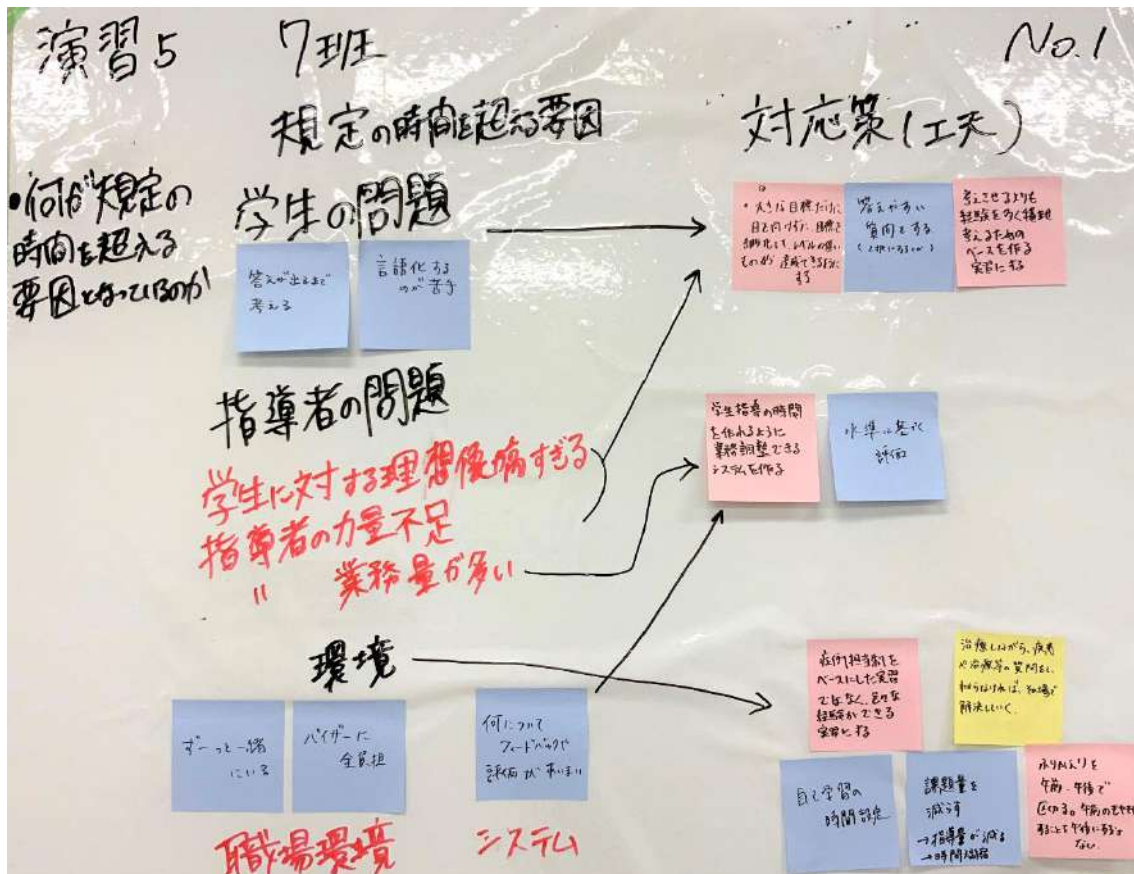
6 班 1





名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	7 班

7 班 1



演習5 7班事例2

客観評価
技能中心

1W 5日自
学校と指導者
連絡7月3日

No.2

1週(40h) 学生の理解度を高める。病院の特性を知った上で授業

2週(40h) 臨床実習

3週(40h) 90分立案の工夫

4週(40h)

5週(40h) 老健訪問

6週(40h)

7週(40h)

8週(40h)

他職種の詳細
具体資料

2w 評価の50%の立案の評価
1名に集める

経験した臨床中
個別の知識を
評価する

3w 高齢者に対して
適切なコミュニケーション
がとれる

高齢者から
必要な情報を
得られる

4-6w 老健
見学(4人)
回診(1名)と
連携

訪問、老健に
関心を持って
みる。2名は
「おもしろい」
「いいね」

生活習慣に基づいた
高齢者理解の
意義を理解する

病理解り
Pの理解
Eの理解

8w 残り1w
より100%
軽易な1名

技能 指学
脳 4:6 → 3:7
脳以外 9:1

指学
月 2:8
脳以外 7:3
水準に力をつけて
→ 老健に申し送り
← 実習地訪問

水準1は7月

自己研鑽の促し方

全曜日に
次週の予定の
確認

毎週
何か興味をもた
せること
(7月)

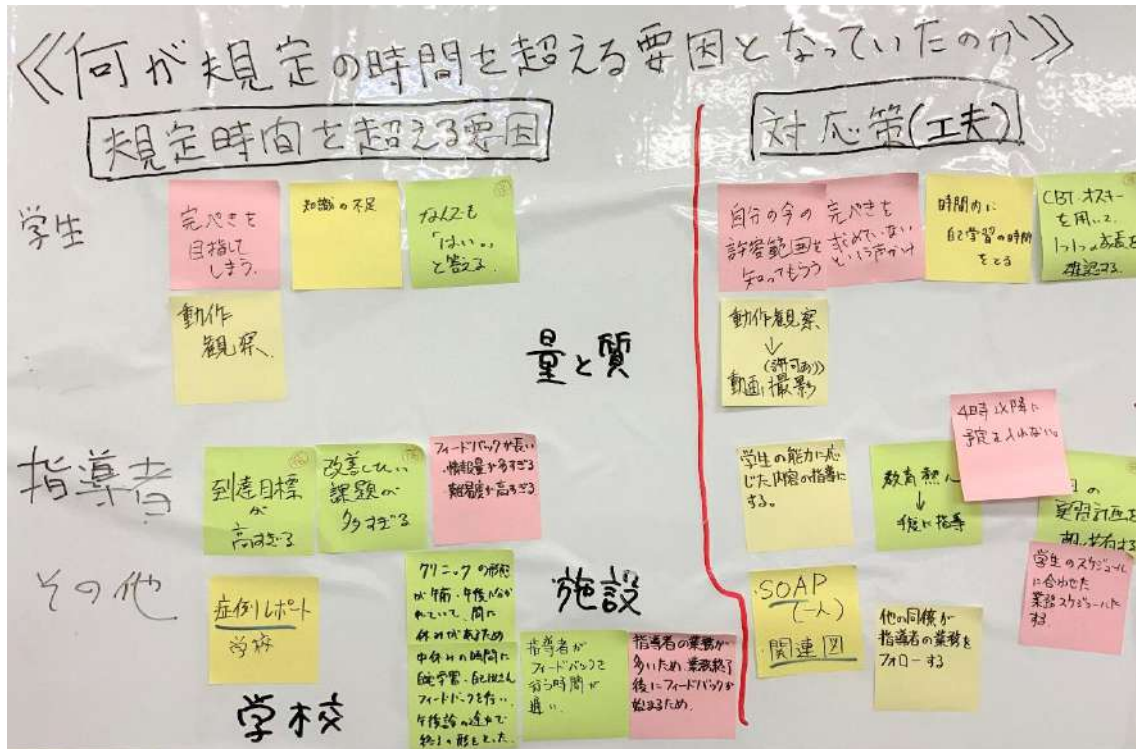
5日目に1週間を
振り返る

読んでくれる
内容に合わせた
質問をして
もらった

毎日

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 5 【臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案】 (120 分)
グループ	8 班

8 班 1



8班 演習5-② a:見学 b:協同参加 c:実施

《臨床実習プログラム立案の工夫》 事例②

週	時間	AM	PM	リスト管理	評価 (情報収集)	評価 (検査)	治療	重作介助
1週	(40hr)	病	老	a	b	a	a	a
2週	(40hr)					b		
3週	(40hr)			b	c			b
4週	(40hr)						b	
5週	(40hr)		病					
6週	(40hr)			c				
7週	(40hr)							
8週	(40hr)			c	c	b	b	b (到達目標)

到達目標を申し送る

学校 CBT-OSCE 共通使用

多様な疾病 病種別

自己研鑽の促し方

- 指導者側: 自己研鑽する
- 知らない車の熱さを知る
- 実習生の目標と聞くと現状と目標との差も分かる
- 段階的な方法を細かく説明できる
- 学んだ知識が臨床で活かせる経験と意識
- 実習の中心に興味が出たものに楽しさをあげてもらう
- 学ぶ楽しさを知り、熱心に取り組む

名称	第552回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021年11月27日(土)～28日(日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90分)
グループ	1班

1班1

実習指導者の評価

どのものに活用するか

指導方法とその実施の仕方、新しい働きに必要な検討	今回の指導者のみならず、他の指導者も活用できるように	自施設での実習指導者だけでなく、実習の際に他の実習指導者も活用可能なように配慮する。	指導者としてのレベルアップのため	人事評価時に活用 昇任するに活用	学生指導期間の時間・勤務の時間調査	ハラスメントの抑制	学生の担当指導者の選考基準 (3年以上指導経験者)
--------------------------	----------------------------	--	------------------	---------------------	-------------------	-----------	---------------------------

評価項目

実習生	指導者
実習生の満足度 達成率	観察を求めている指導者が観察できる指導者が多いか (観察可能な指導者)
ハラスメント行為の有無	実習生に対する態度・雰囲気
	説明が理解しやすいか、かたがた。
	実習生に対する説明
	実習生に対する態度や言葉遣い(ハラスメント防止)

評価方法(時期・留意点)

初期	面接 (開始前/実習後)
中間	アンケート・面接
終了後	アンケート (態度・知識・技能)

- アンケート・チェックシート(紙)
- 面接

実習終了時に実習生から(複数)にアンケートの提供を依頼し、学校へ評価を提出

1 班 2

プログラムの評価

どのように活用するか

他の学生指導に活用していく

自分自身の課題を明らかにする

自分自身の達成感に対して課題を明確にする

評価項目

実習生

満足度
達成感

実習生1回の能力に合わせたプログラムの提供が、目標が明確に寄与したスキルが身についたのか

指導者

学生の目標との相違点
達成感
(最初と最終段階での)
プログラムの進捗に
対応できたか
見学の満足度
への満足は適切か
意味か

達成度を
数値化

内容・スケジュールの妥当性
内容・1日の実習時間
自己研さんの時間

評価方法(時期・留意点)

初期

中間

終了後

達成割合

学生の
評価面談
毎日の
フィードバック

自己評価シート 学生アンケート

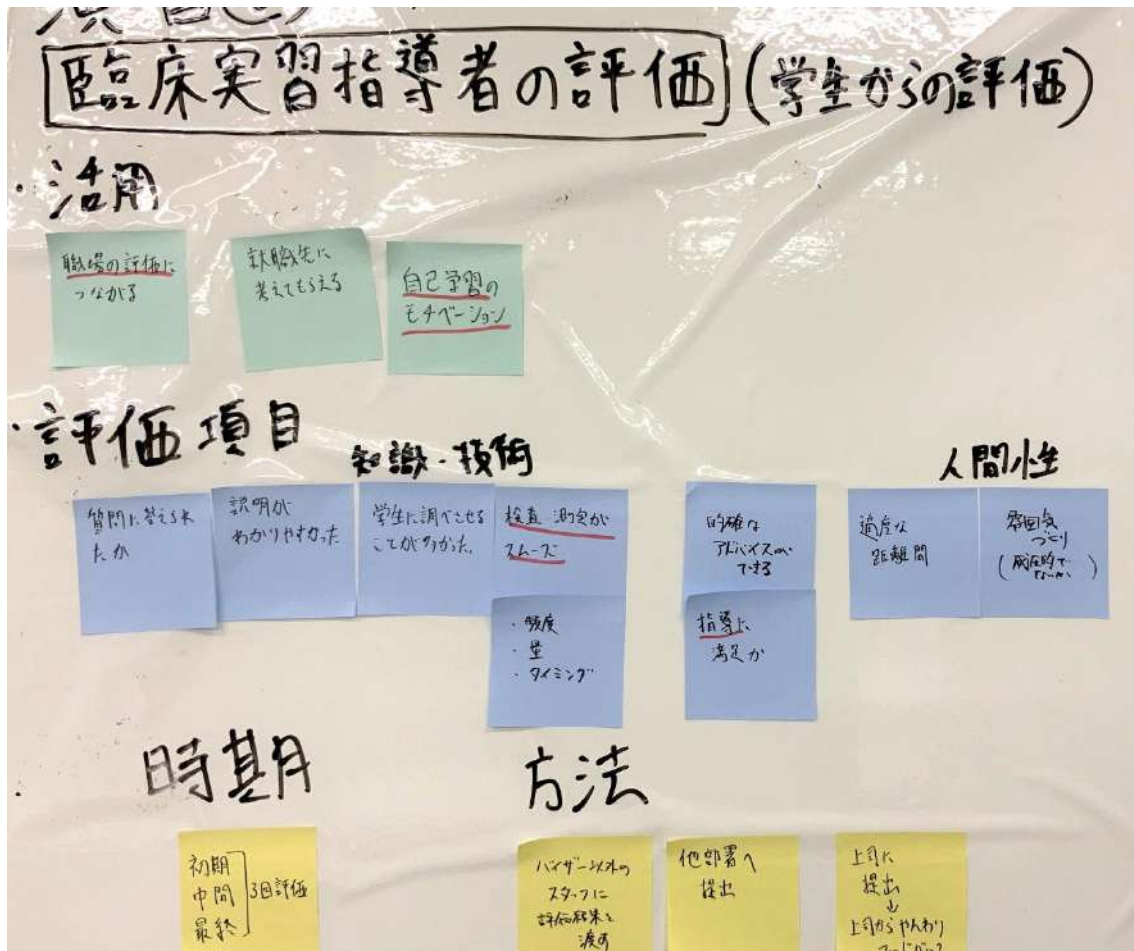
上司・同僚・
学校教員など
第三者の
意見も

アンケートの形式で実施する。
数分程度で行う。

↓ ↓

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90 分)
グループ	2 班

2 班 1



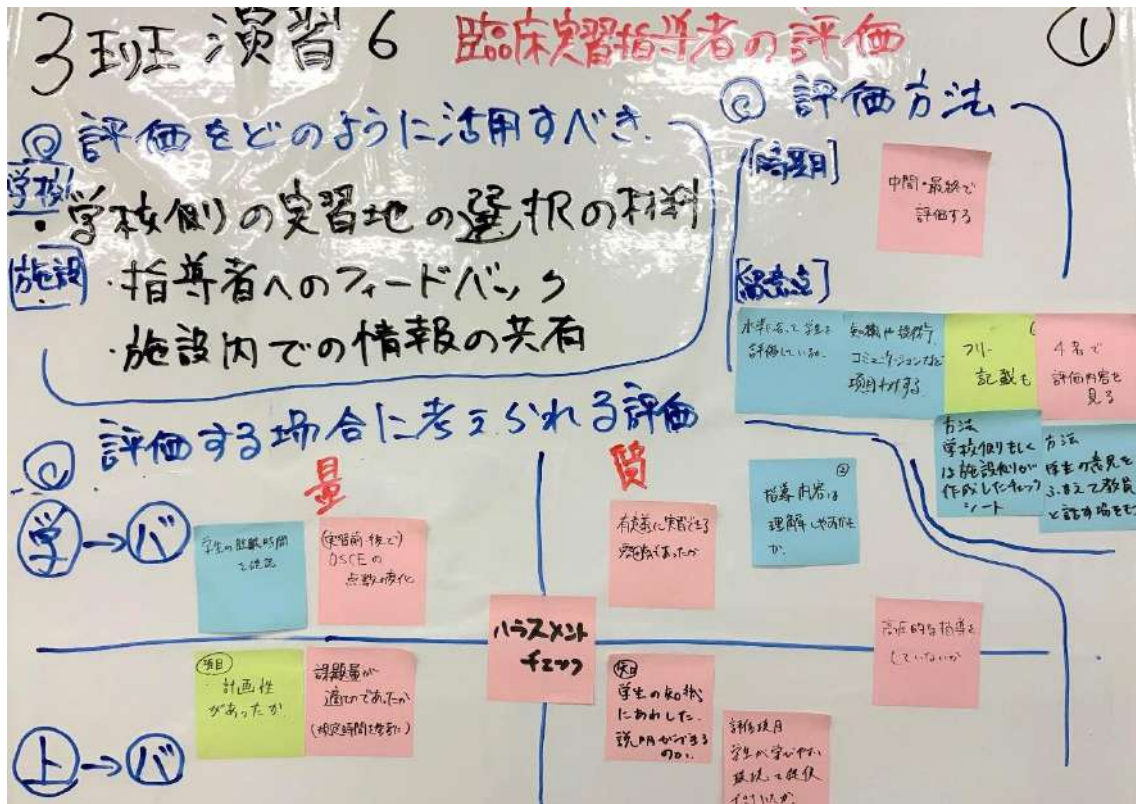
臨床実習プログラムの評価 (上司・学生からの評価)

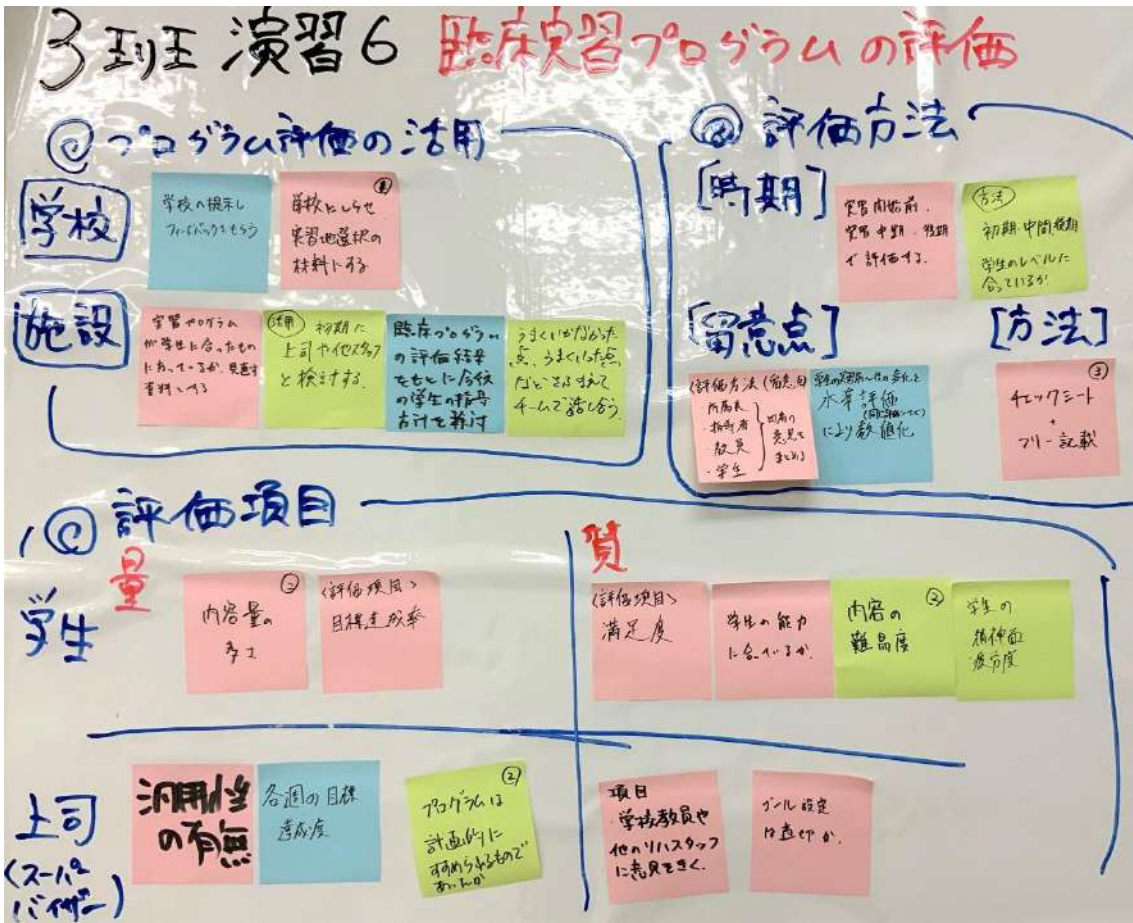
- ・活用方法
 - 今回のバナーの目的に活用
 - プログラムの実施進捗を把握
 - 自己反省
 - 自分の成長のモチベーション
 - スタッフ間の情報共有
- ・評価項目
 - プログラムの進捗
 - 自己研鑽に力を入れているか
 - 学生が向学心が増えたか
- ・評価の時期
 - 毎週(週末)
- ・評価方法
 - チェックリスト(2週-1回)
 - 学生へのフィードバック
 - 上司との面談
 - 小単のチェック
- ・留意点
 - 上司・学生からの評価をcheckし、改善を促す

部署全体でフォロー・サポートする体制をつくる
指導者を孤立させない

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90 分)
グループ	3 班

3 班 1





名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90 分)
グループ	4 班

4 班 1

演習 ⑥ 4 班 (指導者の自己評価) 学生からの評価 No. 1

< 臨床実習指導者の評価をどのように活用すべきか >

- 実習の質の向上
 - 学生を追いつめない (環境作り)
 - 失敗を繰り返さない (次回実習指導に活かす)
 - 学生と指導者の良好な関係を保つ (お互いの意見に相違がゆえに)

< 臨床実習指導者を評価する場合に考えらる評価項目 >

学生が 理解しているか?	実習時間を 守れているか	CV、SU の 評価は適切 か?	分かりやすく 説明し てくれているか	疑問の 相違は 解決しているか?	学生が話し やすい環境を 作れているか?
-----------------	-----------------	------------------------	--------------------------	------------------------	----------------------------

< 臨床実習指導者を評価する場合に考えらる評価方法 (時期・留意点含め) >

方法	アンケート + 一言コメント	2w アンケート 実施	第三者に 目を通し てもら	4 FII 各 2 グループ 3 分	時期	進捗状況 第三者に伝える Out per. 課題	おこし 学校へ直接	実習終了時
-----------	----------------------	-------------------	---------------------	-----------------------------------	-----------	--------------------------------	--------------	-------

演習⑥ 4班 (臨床実習指導者講習会の受講者) No.2

〈臨床実習プログラムの評価をどのように活用すべきか〉

◎ 実習の質の向上

〈臨床実習プログラムを評価する場合に考えられる評価項目〉

前 中 後

参加型 実習に なっているか	水準の評価 は出来ているか	目標外 達成か	指導内容 はあっているか なっているか	到達目標 は達成で きているか
----------------------	------------------	------------	---------------------------	-----------------------

→

〈臨床実習プログラムを評価する場合に考えられる評価方法(時期・留意点含む)〉

チェックリスト を作成し 実施する	臨床実習 指導者講習会 と合わせて 確認し 実施する	1人でなく 他のスタッフと 連携の 確認 チェックリスト	アセスメント の 留意点 共通認識 の 確認
-------------------------	--	--	---------------------------------------

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90 分)
グループ	5 班

5 班 1

5 班

演習⑥ No.1

臨床実習指導者の評価活用法

- ・問題点の共有(SV・CV間、リハ科全体)
- ・次への改善
- ・指導者の個性をみる

指導者を評価する項目

- ・実習時間が守られているか
- ・課題の量が適切か
- ・実習生の達成度(充分な教育ができたか、成長できたか) 知識・技術・態度 (フィードバック)

指導者の評価方法

(時期)	(留意点)	(方法)
・開始時	・学生とSVとSSの評価が 分からないように	・チェックシートの活用 (課題・目標達成 時期・方法)
・中間	・第三者が結果を伝える	・現場をみてもらう
・最終	・同年代評価× ・実習後は必ず評価する	・学生との関係性はどうか

臨床実習プログラムの評価をどのよう=活用するか

- 資料として残しておく
- 今後の参考にしていく

臨床実習プログラムを評価する項目

- 水準に合ったプログラムか
- 学生レベルに合っていたか
- 立案通りに進められたか
- 難易度

プログラム評価方法

時期

- ・ 開始時
- ・ 中間
- ・ 最終

留意点

- ・ 立案内容が妥当か
- ・ 課題の達成状況か
- ・ 修正通りの達成状況に
なっているか

方法

- ・ 文章で課題、目標
- ・ 達成時期、方法と確認し
点数化して可視化する
- ・ "

名称	第552回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021年11月27日(土)～28日(日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90分)
グループ	6班

6班1

臨床実習指導者の評価の方法

前期 → 12月 → 後期

学生 → 指導者評価 → アシタ実施

第三者 → 指導者評価

教師向人材評価 (上司...)

臨床実習指導者の評価の活用

- 指導者 態度
- 中期の評価を 行う体制 継続的改善 期間短縮
- 指導者間の連携
- チーム内で 共有 次の実習に つなげる
- 評価方法
- チーム 研修の心
- アンケート (匿名で) 実施
- 研修 実習 実習
- 指導者間の連携

臨床実習指導者の評価項目

態度 知識・技術 学生への関わり

態度

- 項目: 指導者の関わり方、どうしてか、不安
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度

知識・技術

- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度

学生への関わり

- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度

PTと指導者の関わり

- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度

指導者の関わり

- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度

指導者の関わり

- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度
- 項目: 指導者の関わり方、態度

活用
 示すことの
 分科 確認

・臨床実習プログラムの評価の活用
 学生に合わせたプログラムの設定

- スキル
- ストラテジー(時間の配当)
- 目標設定

・臨床実習プログラムの評価項目
 事前にプログラムを検討したか
 共有できていたか!?!

- ・ 目標の立て方
- ・ スキルアップできる内容に絞っていたか
- ・ 様々な疾患を経験できたか
- ・ 学生の能力に合わせていたか
- ・ 時間内に終了できていたか
- ・ 診療参加型に絞っていたか

・臨床実習プログラムの評価方法
 時期
 実習前 と 中間, 終了時
 上司にプログラムを見せてみる。実習生へ
 事前につたえる。

・ プログラムを1人で決めるので
 なくSV, CVで内容を確認し
 修正ね。(第三者を入れる)

・ 評価は、実習生、指導者、
 第三者(上司等)で行う。

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90 分)
グループ	7 班

7 班 1

演習 6-① 臨床実習指導者の評価 7班E

臨床実習指導者の評価をどのように活用すべきか

⇒ アイリングして全体共有.

臨床実習指導者と評価する場合に考えられる評価項目

臨床実習指導者と評価する場合に考えられる評価方法

時期 方法 留意点 指導者側

学生への最終評価 右側

指導者側が全行終了

指導者の評価を
受けるに指導者
全体の指導方法を
統一させる

全体的に指導者
側が「全体的」
実習生が「全体的」
就職に役立つ

業務調整の
余地がある

この実習生に
対して実習を
行わせるため

学生に評価を
受けるに
与えるため
100%

業務の負担は
過度に重く
ないか

授業の量・学生
適切なものに
適当に
実習指導は
必要か?

下回時間と
作業に余裕がある
時間内に
実習を終了
できるか

学生の業務的な
負担に合わせた
実習時間か?

指導者の負担は
過度に重く
ないか

学生への最終
評価 右側

ルーブリック評価 1~5 or 1~10
数値による
質的評価による
最終評価 100%

留意点
実習生が評価を
受けるか、指導者と
評価を受ける
評価は必ず
行うか

指導者側
チェック

真習6-② 臨床実習プログラムの評価

75/12

臨床実習プログラムの評価をどのように活用するか

スケジュール調整

他の実習生に
使用できるものが
ないか？

他2271-
42211117
167806708
A22

29479902実有

臨床実習プログラムを評価する場合に考えうる評価項目

・水準チェックリストに沿って

水準
チェックリスト
どの期・達成
目標に達しているか

プログラムを修正
した理由は？

学生の負担は
大きいのか
適切な評価か？

臨床実習プログラムを評価する場合に考えうる評価方法

時期

方法

留意点

実習終了後

16-17の時期
主観
客観 視上

SV.7-219-70
意見が必要
(AF.59211)

名称	第 552 回臨床実習指導者講習会
会期、会場	2021 年 11 月 27 日 (土) ~28 日 (日) びわこリハビリテーション専門職大学
単元・テーマ	演習 6【臨床実習指導者およびプログラムの評価】(90 分)
グループ	8 班

8 班 1

8 班 演習 6-① 立場: 部門長

臨床実習指導者の評価

どのように活めたいか

- 長期
 - 訓練必要
 - 施設内・共有で内容は異なる
 - 評価者ご個人差が大きい確認
 - 全任の V ポルマップ
 - 学生の V 成長
 - 評価結果の統計を指導者向けに提供
 - 臨床実習指導者評価(小冊子)を使用し、指導者や学生の指導者向けに提供
- 短期
 - 学生・施設間の負担を減らすこと
 - 不適切な項目を修正する
 - イラストの表現の確認 → 既出

考えられる評価項目

- 施設 (スタッフ) 学生
 - 実習計画、内容、意欲、指導
 - 自己研鑽を促しているか
 - 実習計画、内容、意欲、指導
 - 学生の能力に対して柔軟に対応しているか
 - 学生の不足している点を指摘してあげているか?
 - 注意の量 (して外)
 - 実習生と指導者の関係性 (1対20の場合)
 - 参加型でいいか。

考えられる評価方法(時期・留意点)

- 時期
 - 実習2日目
 - 2w-1日
 - 3週間終了後
 - 5w-2日目
 - 実習終了後
- 留意点
 - 指導者は実施到達度と自己評価
 - 改善策
 - 指導者の報告
 - 実習生への確認
 - 指導者の報告 (4w)
 - 部門長に報告

臨床実習プログラムの評価

どのように活用すべきか

- 実習プログラムの進行状況
- その時々の学生の実習に合わせたプログラムの変更
- 学務上の意見交換
- 実習生はどの程度が満足しているか

考えられる評価項目

- 多様な疾患が経験出来たか
- 水準の高い実習がバランスよく経験できたか
- 個々の実習生に応じてプログラムがあるか
- 時間的に終わっているか
- プログラムの適性量と質、到達目標の達成度
- 学生の成長が実感出来ているか

考えられる評価方法(時期・留意点)

時期

- 実習開始前に 部門長が確認
- 実習中に 変更

指導者

- 自己評価と対照 部門長の評価

学生

- 本人、学生、教員、管理者の各評価委員
- 実習生にアンケートをとる

方法

- 各々の項目を軸として、教員が判断

